

御所駅周辺地域活性化計画 (案)



平成 22 年 3 月

御 所 市

目 次

1. 計画概要	1
2. 御所市のまちづくりを取り巻く現況整理	2
2.1 地勢	2
2.2 人口	4
2.3 商業	8
2.4 観光	10
2.5 交通	12
3. 御所駅周辺地区のまちづくりの現況整理	15
3.1 人口の状況	15
3.2 商業・商店街の現状	16
3.3 駅前整備計画	19
3.4 交通結節機能の状況	27
3.5 活性化のための取り組みの現状	33
4. 商店街の実態把握の調査概要	39
4.1 調査の概要	39
4.2 調査結果	41
5. 御所駅周辺地区の課題整理	47
5.1 御所の玄関口としての課題	47
5.2 御所駅前環境に関する課題	48
5.3 御所駅前の商店街についての課題	49
5.4 御所まちについての課題	50
6. 御所駅を中心としたまちづくり計画	51
6.1 御所駅周辺の景観づくり	55
6.2 御所駅前空間の環境改善	56
6.3 駅前からの観光PRの強化	57
6.4 御所まちと商店街を含む、観光まち歩き・サイクリングルート の設定と、利用促進策の取り組み	58
6.5 御所まち、市役所・図書館、ライフ・銀行等の利便施設など 周辺施設利用者を商店（街）へと引き込む市民等交流拠点づくり	60
6.6 住民の日常生活に馴染む形での街並みの魅力強化やPR、 小さな活性化拠点づくり	61
6.7 まちに残る「本物」ブランドメニュー開発とPR	62

1. 計画概要

〔背景と目的〕

超高齢社会の到来にともない、公共交通サービスの低下、中心市街地の衰退やまちのにぎわいの喪失、さらには、都市の維持コストの増大といった問題に全国のあちこちの自治体が直面しています。今後、こうした問題・課題を改善していくためには、モビリティが高く、地球環境にやさしい、人々が安全・安心して生活できる、快適で魅力のある“まち”を実現していくことが重要になります。そのためには、鉄道とまちづくりが連携した持続可能なまちづくりに取り組むことが必要と考えられます。

そのような観点から、御所市は、「御所市地域公共交通会議」及び同会議の下部組織として「駅を中心としたまちづくり検討委員会」を立ち上げており、御所市、関係自治会、交通事業者等を構成メンバーとして、地域公共交通活性化や、それとの相乗効果の発現をねらった駅舎及び駅前広場の快適性向上、公共交通利用者の乗り継ぎ利便性向上、公共交通と連携した駅前の活性化等について、検討を進めてきました。

その意見を踏まえ、御所市では「御所駅周辺地域活性化計画」を策定しましたが、本計画のもと、市民、駅周辺の商業者・地権者・住民・NPO、公共交通事業者、警察署、御所市が適切な役割分担の中で主体的に関与し、まちづくりの取り組みを実現していくことで、御所駅周辺地域の活性化をめざします。

2. 御所市のまちづくりを取り巻く現況整理

2.1 地勢

- 御所市は、大阪市や奈良市の大都市近郊の都市として位置づけられています。

御所市は、昭和 33 年 10 月に御所町、葛村、葛上村、大正村の 4 市町が合併し、奈良県で 8 番目として誕生した市です。

奈良県の大和平野（奈良盆地）の南西部に位置し、面積は 60.58km² です。西部は葛城山（標高 959.7m）、金剛山（標高 1,125m）の金剛山地が南北に連なっており、南東部には巨勢山丘陵地などの標高 150～350m の丘陵地があり、そこから平地の広がる緑豊かな自然に囲まれた田園都市です。

県庁所在地の奈良市へは北北東に約 25km、大阪市中心部には北西に約 30km、近畿の空の玄関口である関西国際空港へは西に約 45km の位置にあります。鉄道では、JR 和歌山線や近鉄御所線・南大阪線で、道路では国道 24 号・南阪奈道路などにより、いずれも 1 時間前後で到達することができ、大都市近郊としての立地性を持っています。

また、豊かな自然と悠久の歴史に彩られた文化遺産を今に伝える歴史ロマンが漂う緑豊かな生活文化都市でもあります。

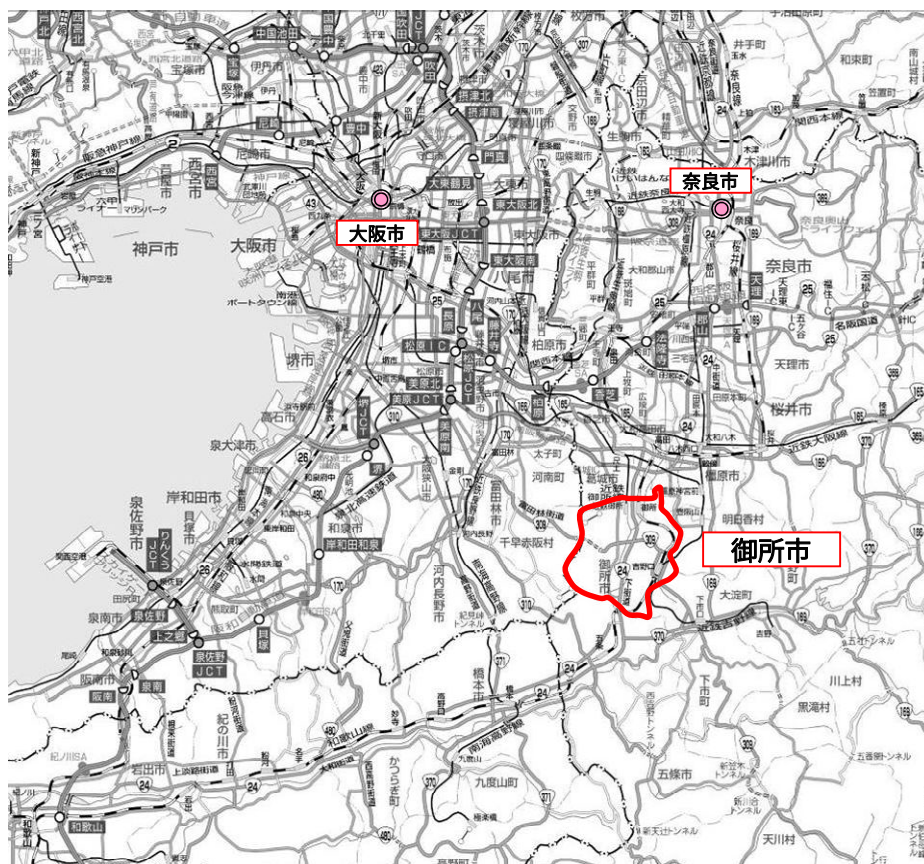


図 2.1 御所市の位置

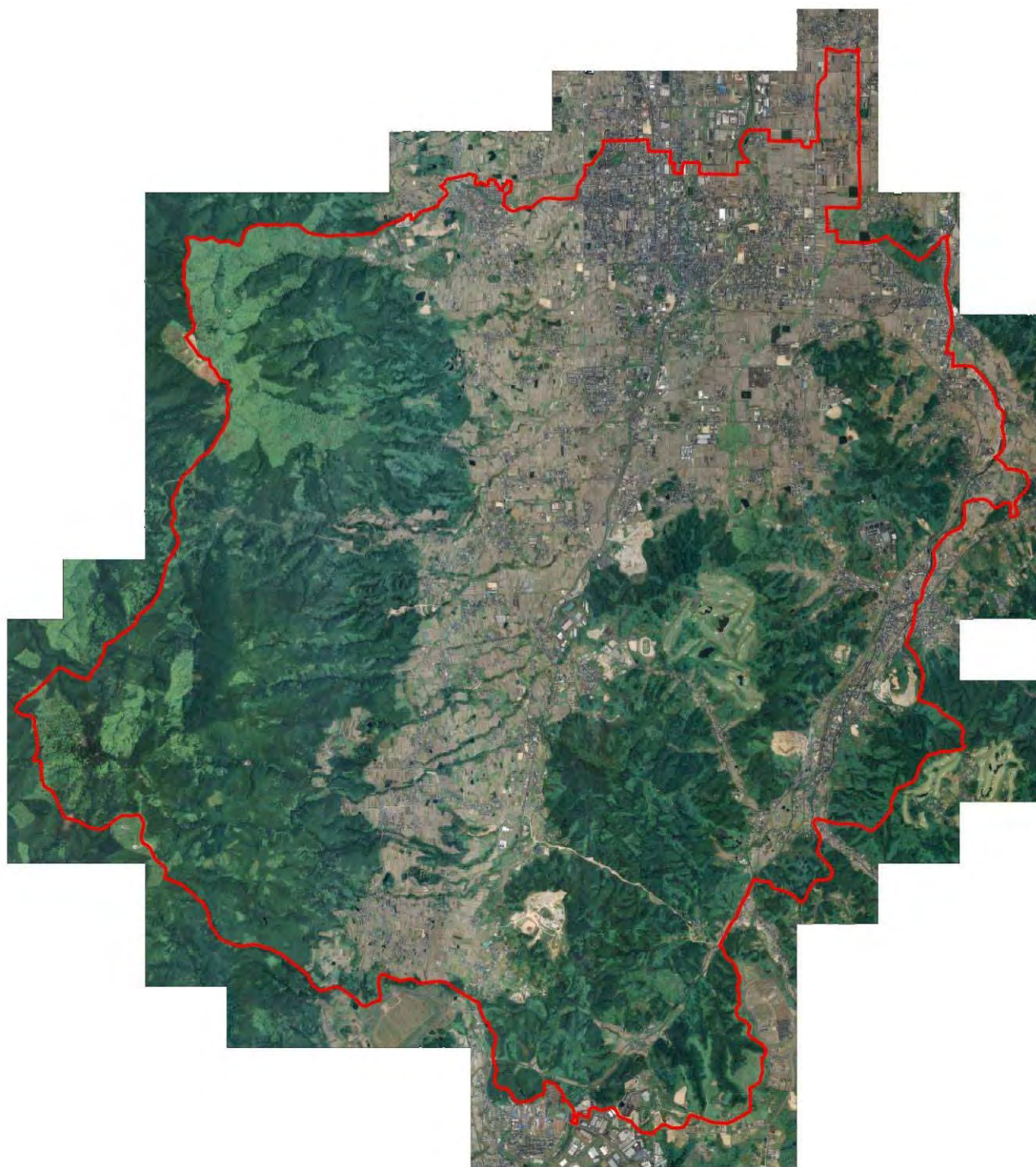


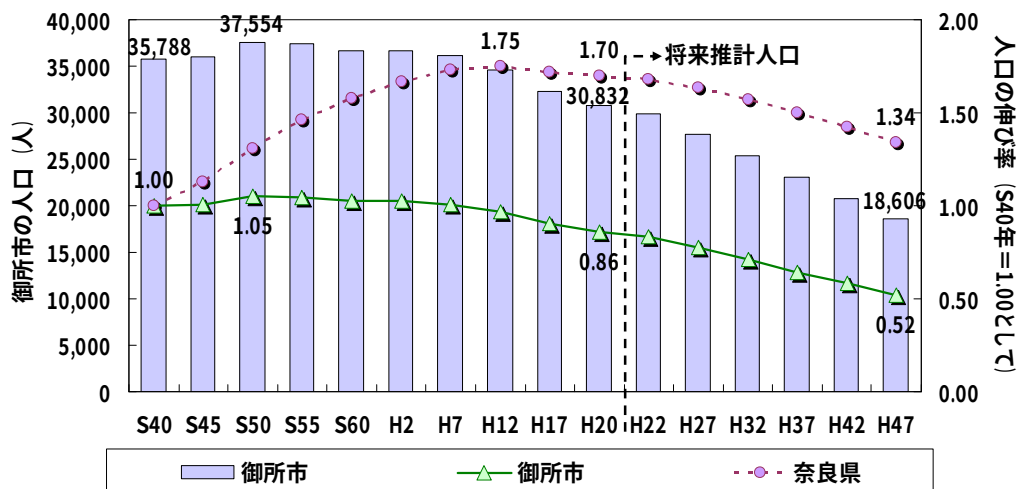
図 2.2 御所市の地勢

2.2 人口

2.2.1 御所市の人口

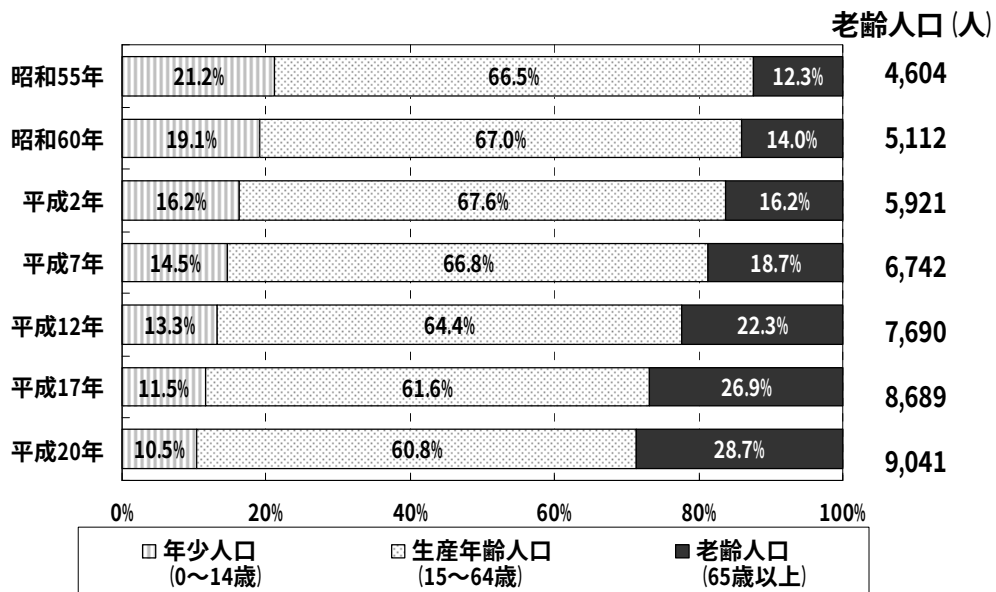
- 人口は、今後も減少傾向の予測がされています。
- また、少子高齢化が急速に進んでいます。

御所市の人口は、奈良県全体の人口が増加する中、昭和 50 年の約 37,600 人をピークに減少傾向が続いており、平成 21 年には、昭和 40 年比で 0.85 です。また、将来推計人口をみても今後減少傾向が予測されています。また、年齢別人口を見ると、高齢化率（65 歳以上人口割合）は増加傾向にあり、昭和 55 年の 12.3%から平成 20 年には 28.7%と急速に進んでいます。その一方で、年少人口は一貫して減少を続け、平成 20 年時点で 10.5%です。



※将来推計人口：日本の市区町村別将来推計人口（平成 20 年 12 月推計）による。
 出典：国勢調査（昭和 40 年～平成 17 年）、奈良県統計課資料（平成 20 年）
 国立社会保障・人口問題研究所ホームページ（将来推計人口）

図 2.3 御所市の人口推移



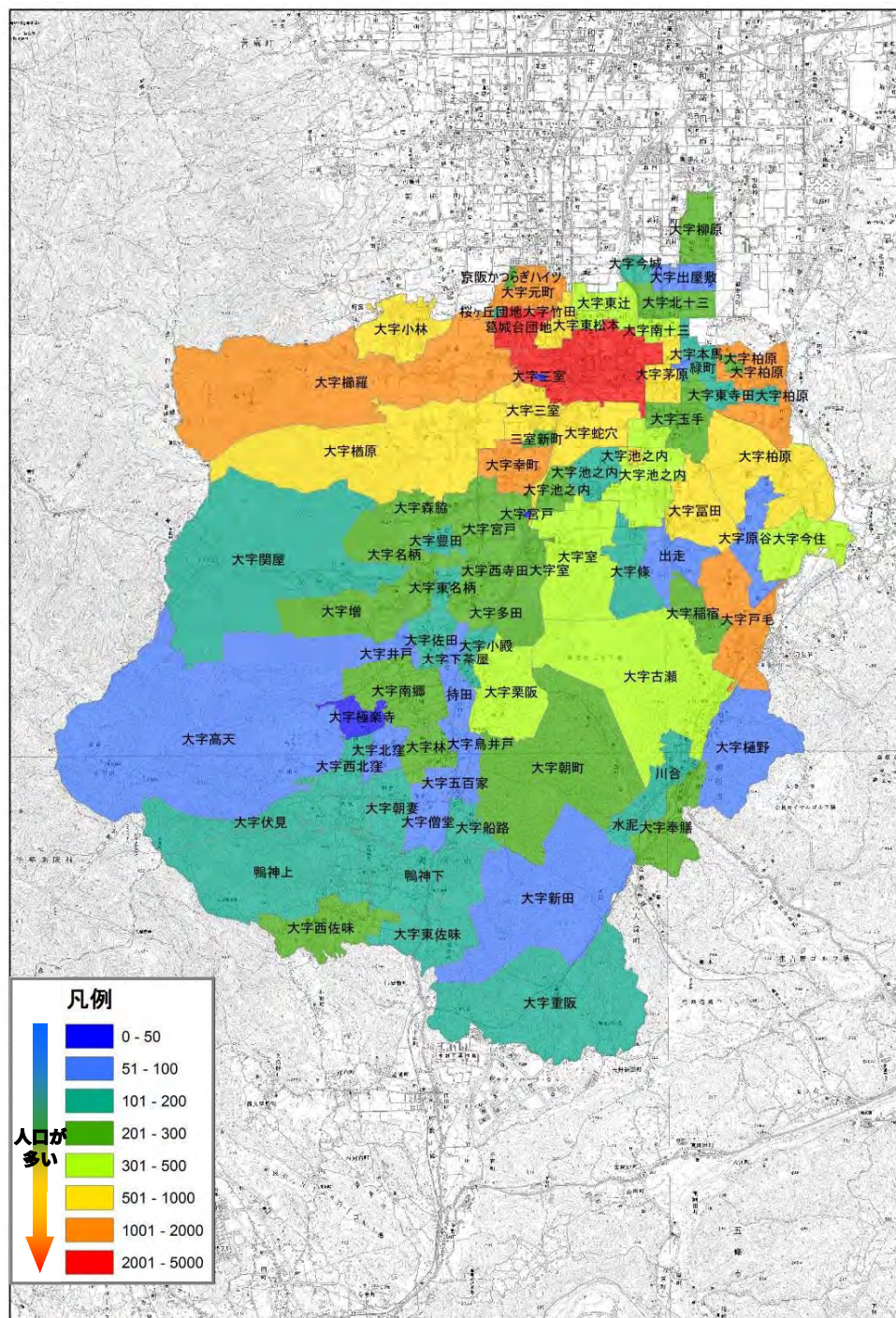
出典：国勢調査（昭和 55 年～平成 17 年）、奈良県統計課資料（平成 20 年）

図 2.4 年齢別人口

2.2.2 町丁別に見た人口状況

- 人口は、御所市中心部がある市北部に集中しています。

御所市における町丁字別人口を見ると、御所市中心部の御所地区が約 4,700 人と最も多く、次いで葛城台団地の約 2,500 人、大字柏原の約 2,400 人、大字元町の約 1,700 人と市北部に集中している。中部及び南部では、300 人以下の町丁字が目だっている。

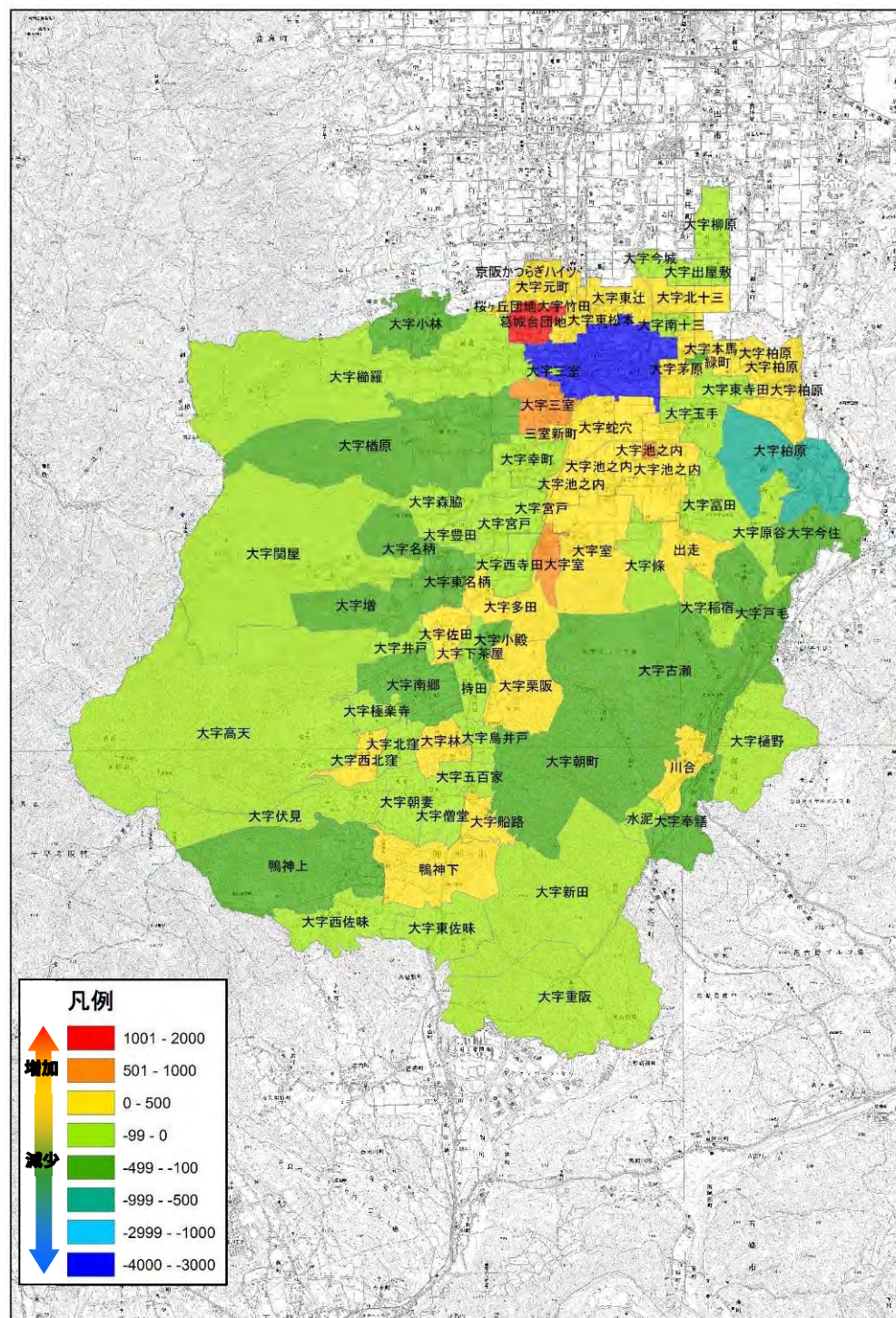


出典：国勢調査（平成 17 年）

図 2.5 御所市における町丁字別人口

- 昭和 40 年から平成 17 年にかけての人口を見ると、御所駅周辺の地区において減少が目立ちます。

昭和 40 年から平成 17 年にかけて（40 年間）の町丁字別人口の増減は、御所駅周辺の地区において約 3,800 減少している。昭和 40 年代以降に開発された葛城台団地では、約 2,000 人程度増加しているが、全体的に減少している地域が多く占める。



出典：国勢調査（昭和 40 年、平成 17 年）

図 2.6 御所市における町丁字別人口の増減状況（昭和 40 年⇒平成 17 年）

- 町丁別高齢者割合は、市内の多くの町丁字で 20%を上回っており、市南部に位置する大字船路で約 36%と最も多く、次いで大字富田で約 35%、大字東名柄で 30%である。

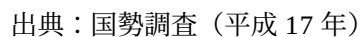


図 2.7 御所市における町丁字別高齢者割合

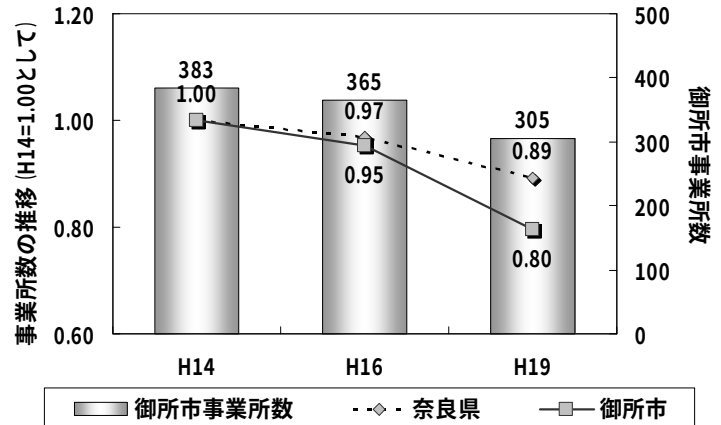
2.3 商業

2.3.1 事業所数

- 事業所数の推移は、減少傾向にあります。

卸売業の事業所数は、奈良県ではほぼ横ばいの傾向が見られるが、本市では平成 16 年に大幅な増加傾向が見られたが平成 19 年には減少傾向となっている。

小売業の事業所数は、奈良県及び本市ともに減少傾向が見られる。本市は、奈良県全体よりも減少傾向が強い傾向にある。



出典：商業統計

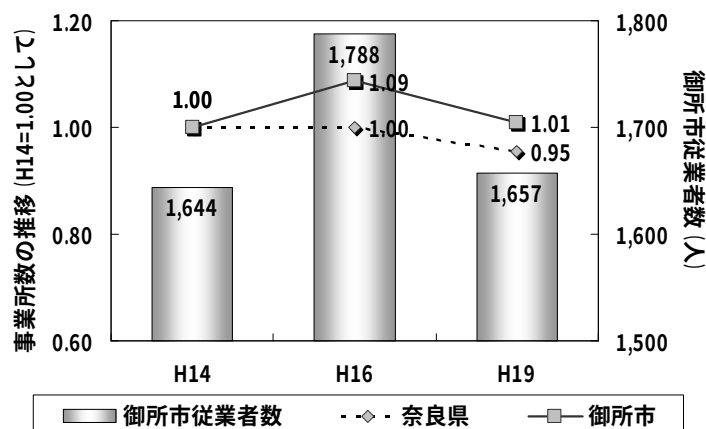
図 2.8 卸売業及び小売業における事業所数の推移（平成 14 年比）

2.3.2 従業者数

- 従業者数の推移は、平成 16 年に増加傾向を示した後、平成 19 年にはやや減少傾向を示している。

卸売業の従業者数は、奈良県全体ではやや減少傾向を示しているが、本市では平成 16 年に大幅な増加傾向を示し、平成 19 年にはやや減少傾向を示している。

小売業の従業者数は、奈良県全体ではやや減少傾向を示しているが、本市では平成 16 年に増加傾向を示した後、平成 19 年にはやや減少傾向を示している。



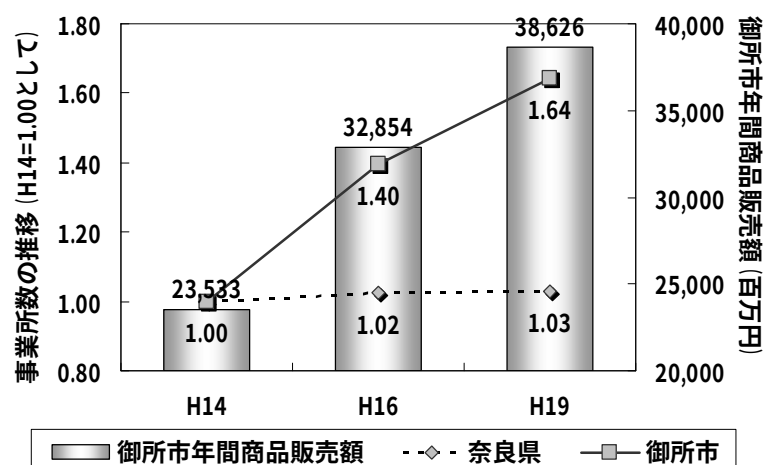
出典：商業統計

図 2.9 卸売業及び小売業における従業者数の推移（平成 14 年比）

2.3.3 年間商品販売額

- 小売業の年間商品販売額は、平成 16 年及び平成 19 年にかけて大幅な増加傾向を示している。

小売業の年間商品販売額は、奈良県全体ではほぼ横ばいの傾向を示しているが、本市では平成 16 年及び平成 19 年にかけて大幅な増加傾向を示している。



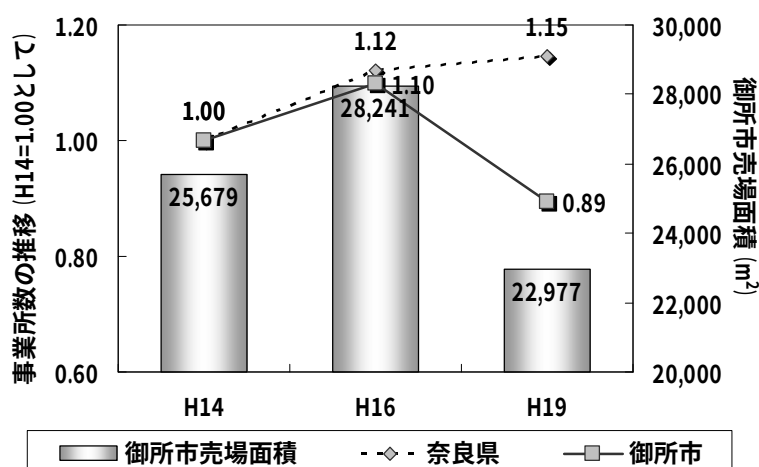
出典：商業統計

図 2.10 卸売業及び小売業における年間商品販売額の推移（平成 14 年比）

2.3.4 小売事業所売場面積

- 小売業の売場面積は、本市では事業所数の減少とともに売場面積も減少の傾向が見られる。

小売業の売場面積は、奈良県全体では増加の傾向が見られるが、本市では事業所数の減少とともに売場面積も減少の傾向が見られる。



出典：商業統計

図 2.11 小売業における売場面積の推移（平成 14 年比）観光

2.4 観光

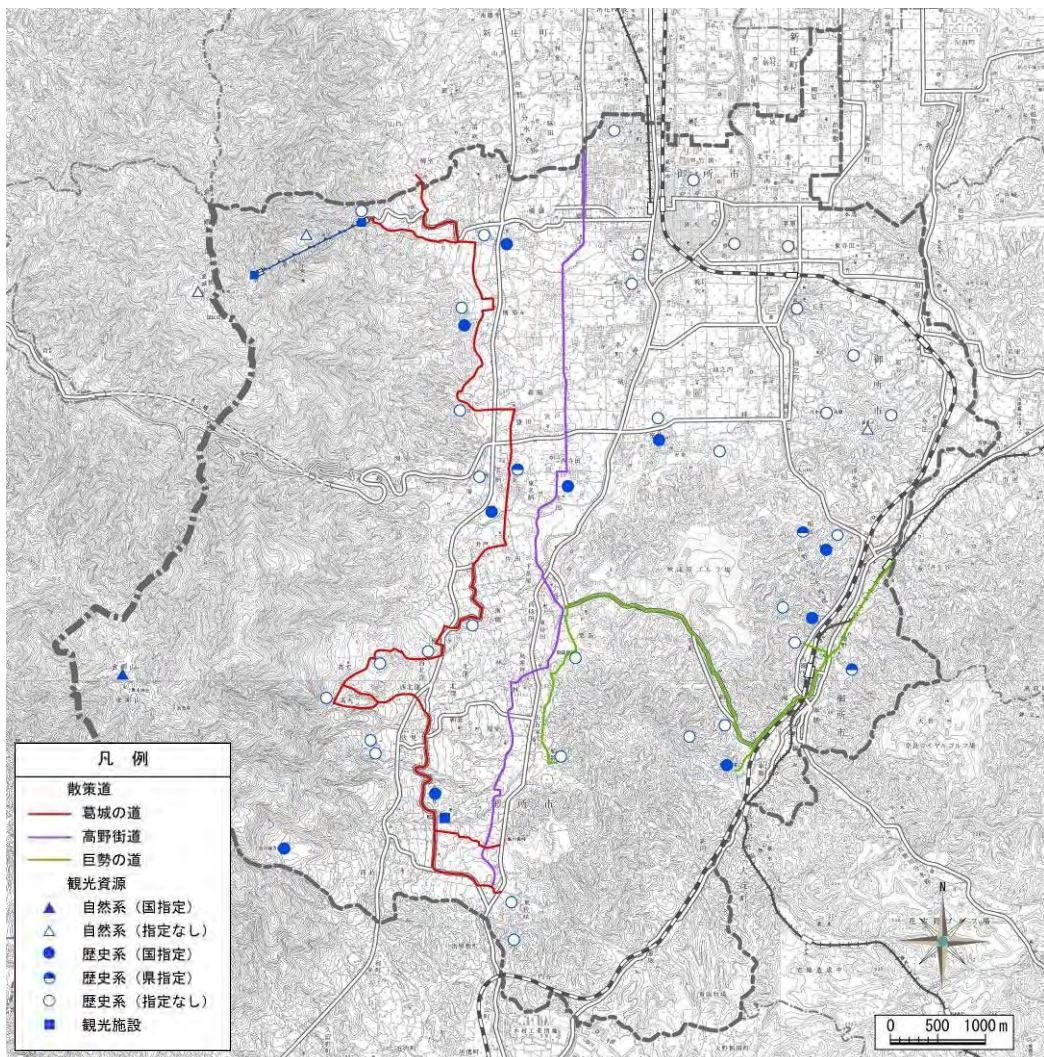
2.4.1 観光施設

- 「葛城山」、「御所まち界限」をはじめ、葛城山麓にある「高天彦神社」の寺社等が市内の主要な観光施設です。

本市の西部は金剛生駒紀泉国定公園に指定されており、葛城山が代表的な観光資源です。葛城山は、山頂までの登山道の他に近鉄御所駅より路線バス及び葛城山ロープウェイ（近鉄葛城索道線）によるアクセス手段があります。

御所市の中心部は、御所まち界限（江戸時代からある町屋の街並みが残ったエリア）を散策する観光客が多いが、自動車が通行可能で、落ち着いて散策できる空間ではありません。

また、葛城山麓には、古来より神話の高天原の伝承地として伝えられるエリアがあり、「高天彦神社」や「高鴨神社」等の史跡、文化財が多く点在しています。それらを結ぶ「葛城の道」、「巨勢の道」の古道もあり、ハイキングコースとして整備が進められていますが、公共交通による機関によるアクセス手段はありません。



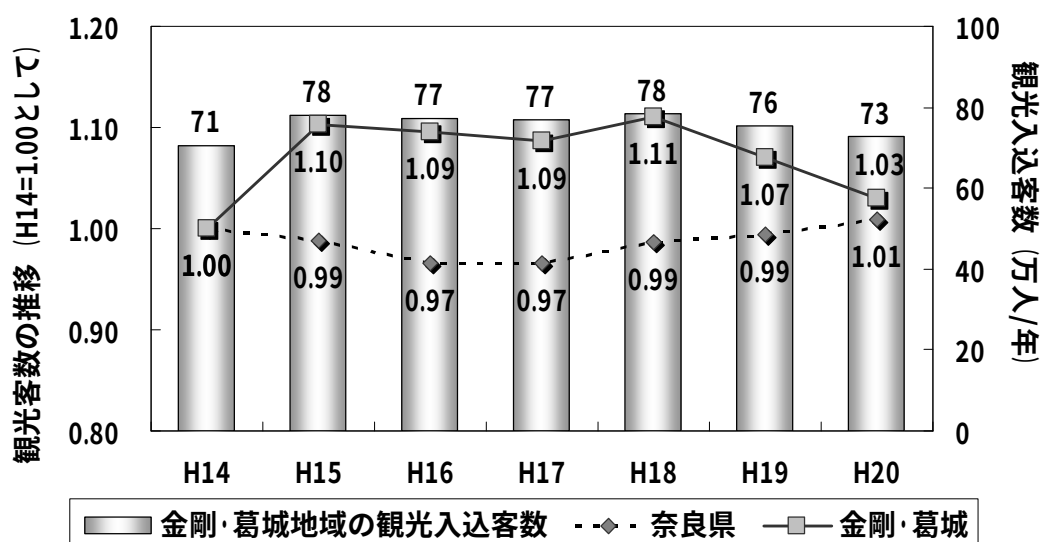
出典：御所市役所資料

図 2.12 観光資源の分布状況

2.4.2 観光入込客数

➤ 観光入込客数の推移は、近年減少傾向にあります。

観光入込客数の推移は、奈良県全体では近年横ばい傾向が見られますが、本市が含まれる葛城・金剛地域では、国道 165 号大和高田バイパス及び南阪奈道路の供用による影響で、平成 15 年度に増加傾向が見られましたが、近年は減少傾向にあります。



※金剛・葛城地域：御所市、葛城市（旧新庄町）、五條市北部
出典：奈良県観光客動態調査報告書（平成 20 年）

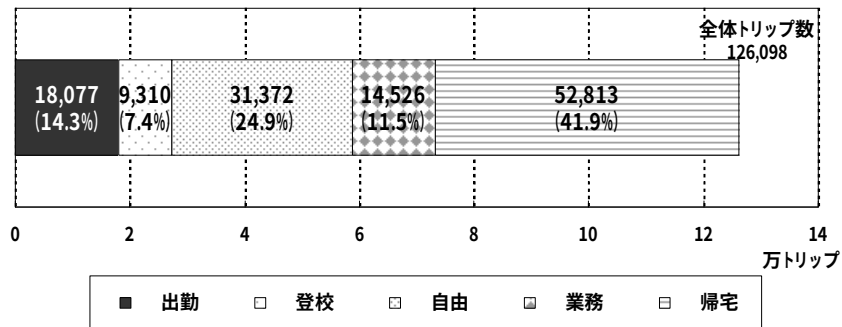
図 2.13 観光入込客数の推移

2.5 交通

2.5.1 移動目的

- 御所市の全体トリップ数は、約 12.6 万トリップであり、その移動目的は帰宅が最も多く、次いで自由である。

御所市の全体トリップ数は、約 12.6 万トリップであり、移動目的は帰宅が約 42%で最も多く、自由が約 25%、出勤が約 14%と続く。



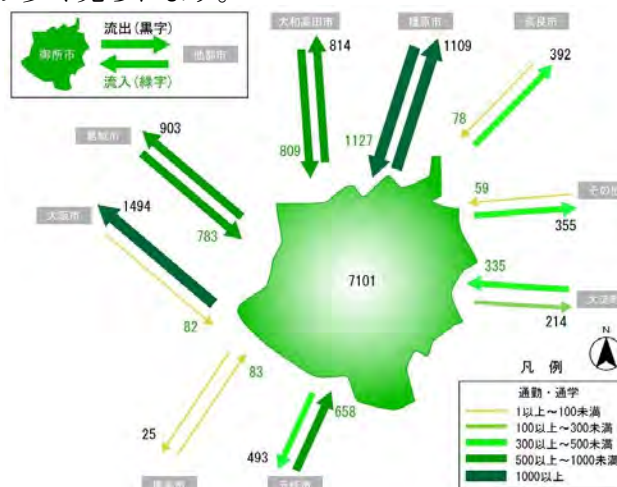
出典：第 4 回京阪神都市圏パーソントリップ調査

図 2.14 移動目的

2.5.2 通勤・通学流動

- 通勤や通学での人の流れは、大阪市や隣接する市町との結びつきが強い。

御所市における通勤通学流動状況を以下に示します。市内在住者の通勤・通学先（流出）は、御所市内の移動が約 7,100 トリップで最も多く、次いで大阪市の約 1,500 トリップ、橿原市の約 1,100 トリップ、葛城市の約 900 トリップ、大和高田市の約 800 トリップと続いており、大阪市及び隣接する市町との結びつきが強いことが分かります。また、御所市を通勤・通学先（流入）とする流動は、御所市内の移動を除くと、橿原市の約 1,100 トリップで最も多く、次いで大和高田市、葛城市の約 800 トリップ、五條市の約 700 トリップと続いており、隣接する市町からの流入が多く見られます。



出典：国勢調査（平成 17 年度）

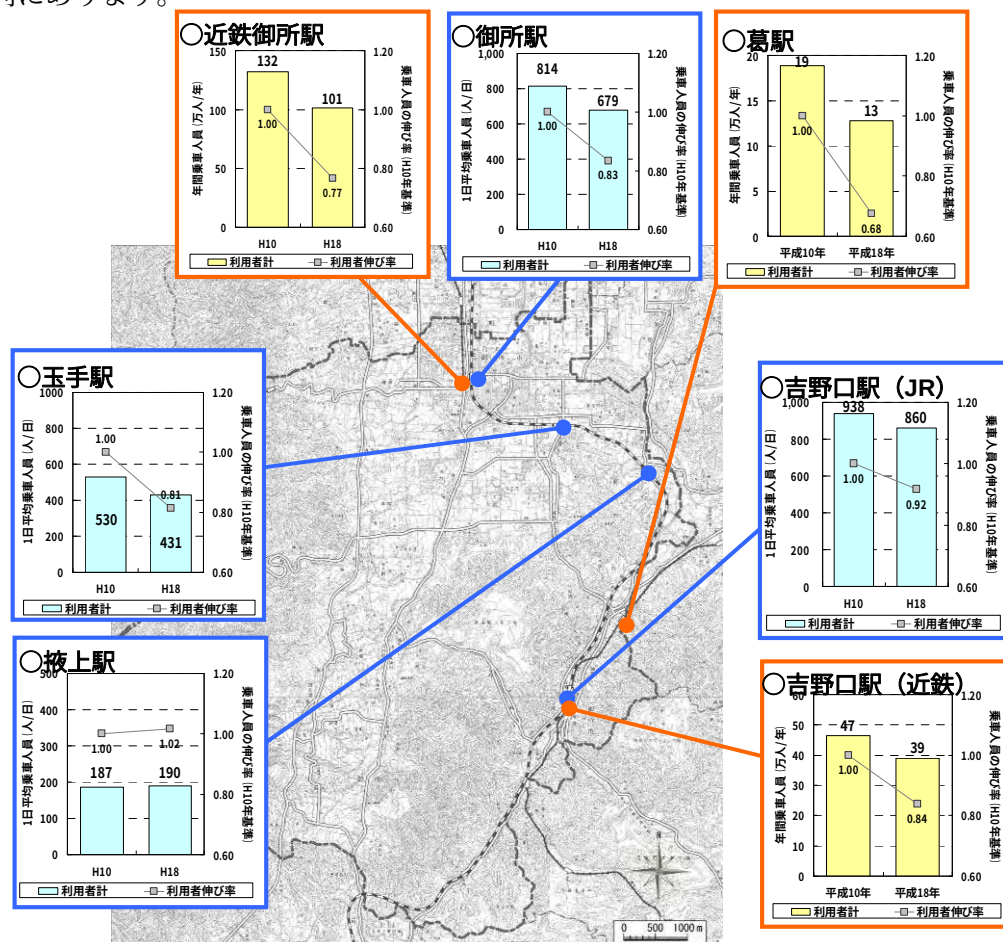
図 2.15 通勤通学流動状況

2.5.3 駅利用状況

- 御所市で最も乗車人員が多い駅は、近鉄御所駅です。
- 市内各駅の乗車人員の推移は、全駅で減少傾向にあります。

御所市の中心部にある近鉄御所駅は、年間約 97 万人/年が利用しており、市内の鉄道駅で最も利用者が多くなっています。

JR 和歌山線の日平均乗車人員の推移及び近鉄御所線と近鉄吉野線の年間乗車人員の推移は、減少傾向にあります。



出典：奈良県統計書（平成 19 年版）

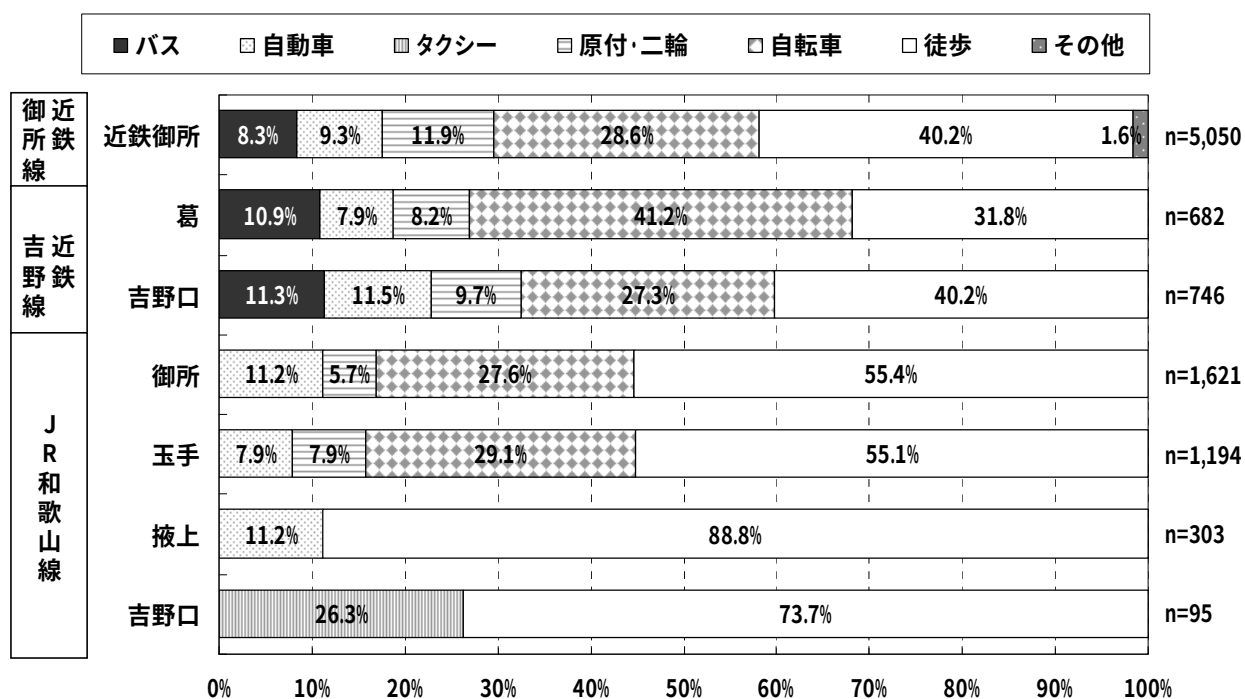
図 2.16 駅別乗車人員数の推移（近鉄線：年間乗車人員、JR 線：1 日平均乗車人員）

2.5.4 駅端末交通手段

➤ 駅からの交通手段は、徒歩と自転車利用が大半を占めています。

鉄線 3 駅（近鉄御所駅、葛駅、吉野口駅）では、様々な交通モードへの乗り継ぎが見られます。バス利用は、近鉄線 3 駅（近鉄御所駅、葛駅、吉野口駅）で見られます。

各駅において、自転車や徒歩が多く占めており、JR 線 4 駅（御所駅、玉手駅、掖上駅、吉野口駅）では、徒歩が最も多く 50%以上を占めています。



出典：第 4 回京阪神都市圏パーソントリップ調査

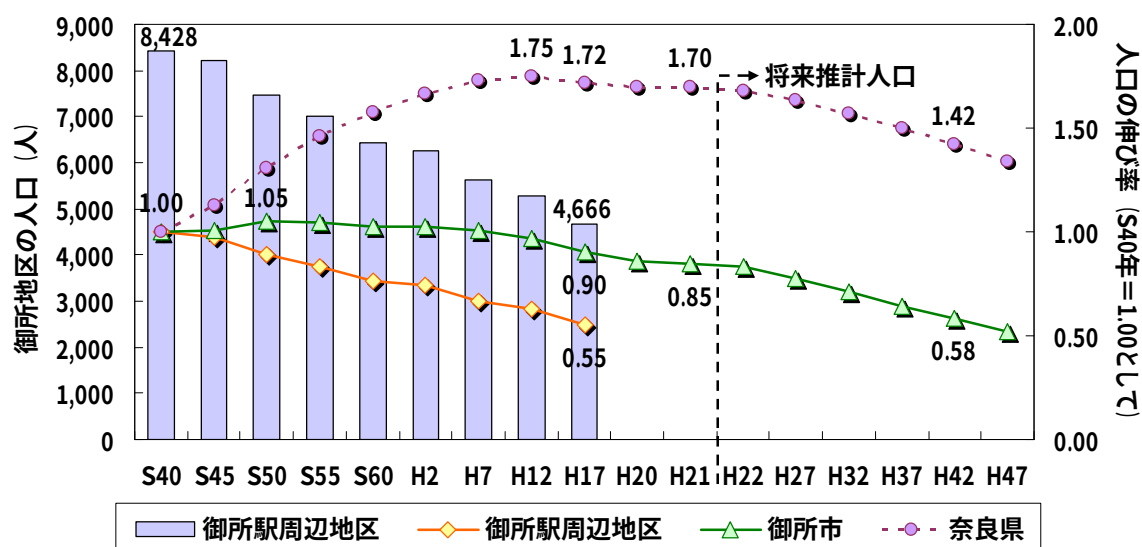
図 2.17 駅端末交通手段の状況

3. 御所駅周辺地区のまちづくりの現況整理

3.1 人口の状況

- 御所駅周辺の人口は、昭和 40 年比で約半数まで減少しています。

御所市の中心部に位置する御所駅周辺地区の人口は、昭和 40 年以降減少傾向が続き、平成 17 年には、昭和 40 年比で 0.55 と約半数にまで減少しています。



※将来推計人口：日本の市区町村別将来推計人口（平成20年12月推計）による。
 出典：国勢調査（昭和40年～平成17年）、奈良県統計課資料（平成20年、平成21年）
 国立社会保障・人口問題研究所ホームページ（将来推計人口）

図 3.1 御所駅周辺の人口推移

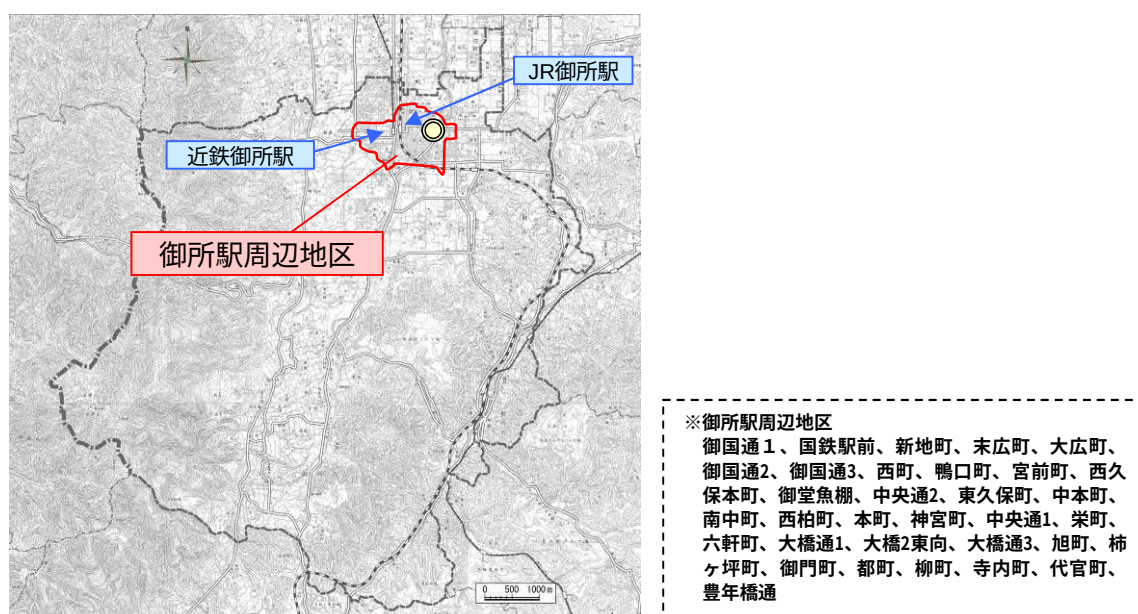


図 3.2 御所駅周辺地区の位置

3.2 商業・商店街の状況

3.2.1 駅周辺の商業集積の推移

- 地域内の店舗数は、昭和 58 年で 307 店舗であったが、平成 20 年で 192 店舗と約 2/3 に減少。

駅前周辺地域（下図、青色破線内地域）の昭和 58 年と平成 20 年の商店や医療機関等の店舗数を下図に示す。

地域内の店舗数は、昭和 58 年で 307 店舗であったが、平成 20 年で 192 店舗と約 2/3 に減少している。飲食店は、平成 20 年には 13 店舗と昭和 58 年の約 1/3 に、食料品店は平成 20 年に 28 店舗と昭和 58 の約 2/3 に減少している。

大型商業施設やロードサイド型商業施設の進出により、商店街の集客力が低下している。また、人口減少等に伴い、商業施設の集積が低くなっている状況にある。

昭和58 (1983) 年



平成20 (2008) 年

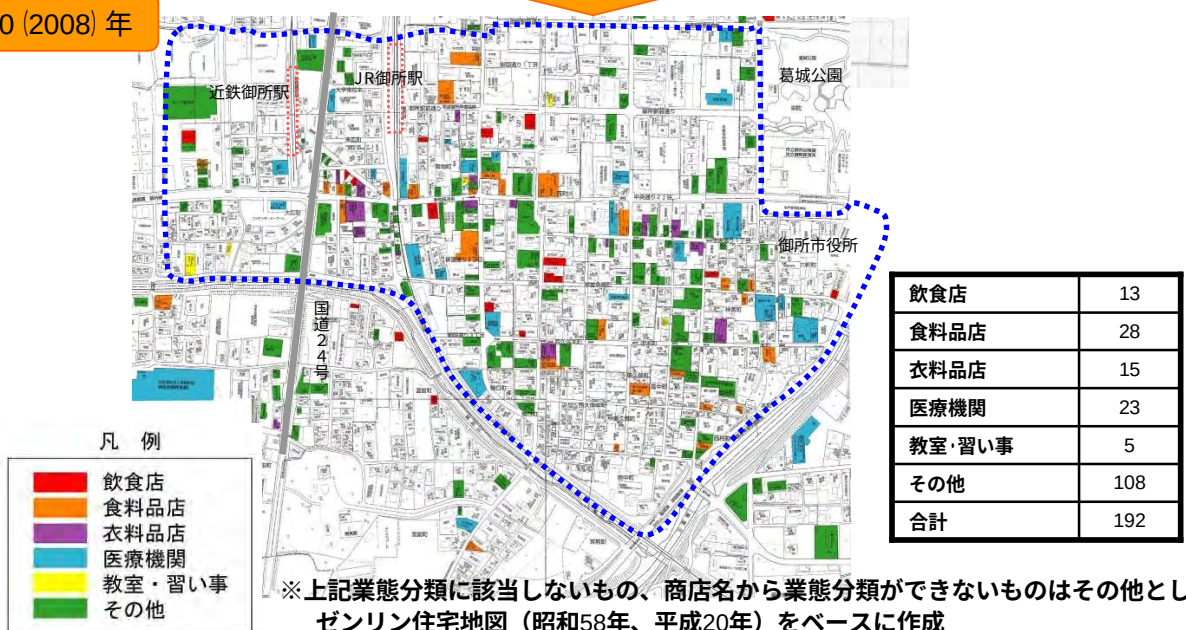


図 3.3 駅周辺の商業集積の推移

3.2.2 商店街の現状

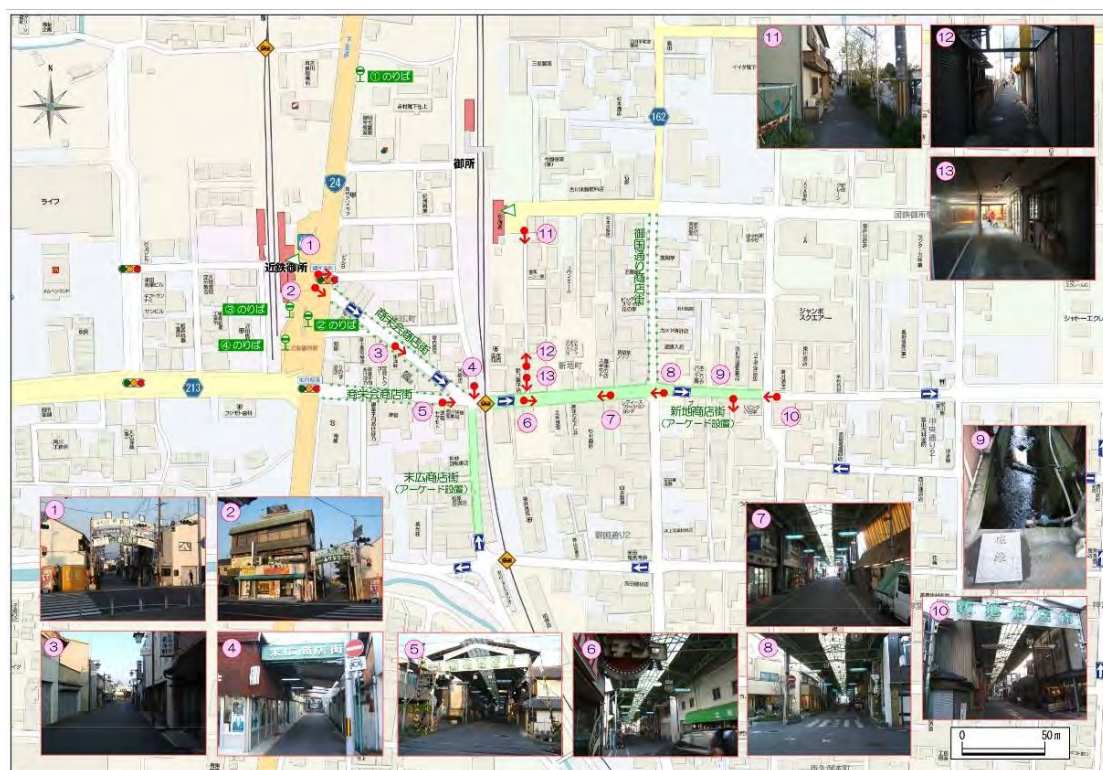
- 商店街は、シャッターが降りたままの空き店舗が目立ち活気に乏しく、自動車の通行が認められており、落ち着いて買い物や散策できる空間ではない。
- 商店街には、国土交通大臣賞を受賞した“環濠”がある。

近鉄御所駅東側から JR 御所駅南側にかけて、商栄会商店街、末広商店街、御国通り商店街及び新地商店街が立地している。

新地商店街及び末広商店街は、アーケードが設置されているが、老朽化している。また、各商店街では、シャッターが降りたままの空き店舗が目立ち活気に乏しい状況にある。

商店街は、自動車の通行が可能であり、落ち着いて買い物や散策できる空間ではない。

新地商店街には、国土交通大臣賞を受賞した“環濠”がある。



※環濠：江戸時代の御所町地域に現存するもので16世紀中に集落内の排水路としてつくられたもの。
平成20年度国土交通大臣賞（循環のみち下水道賞）を受賞。



市役所方面への交通が多い
新地商店街



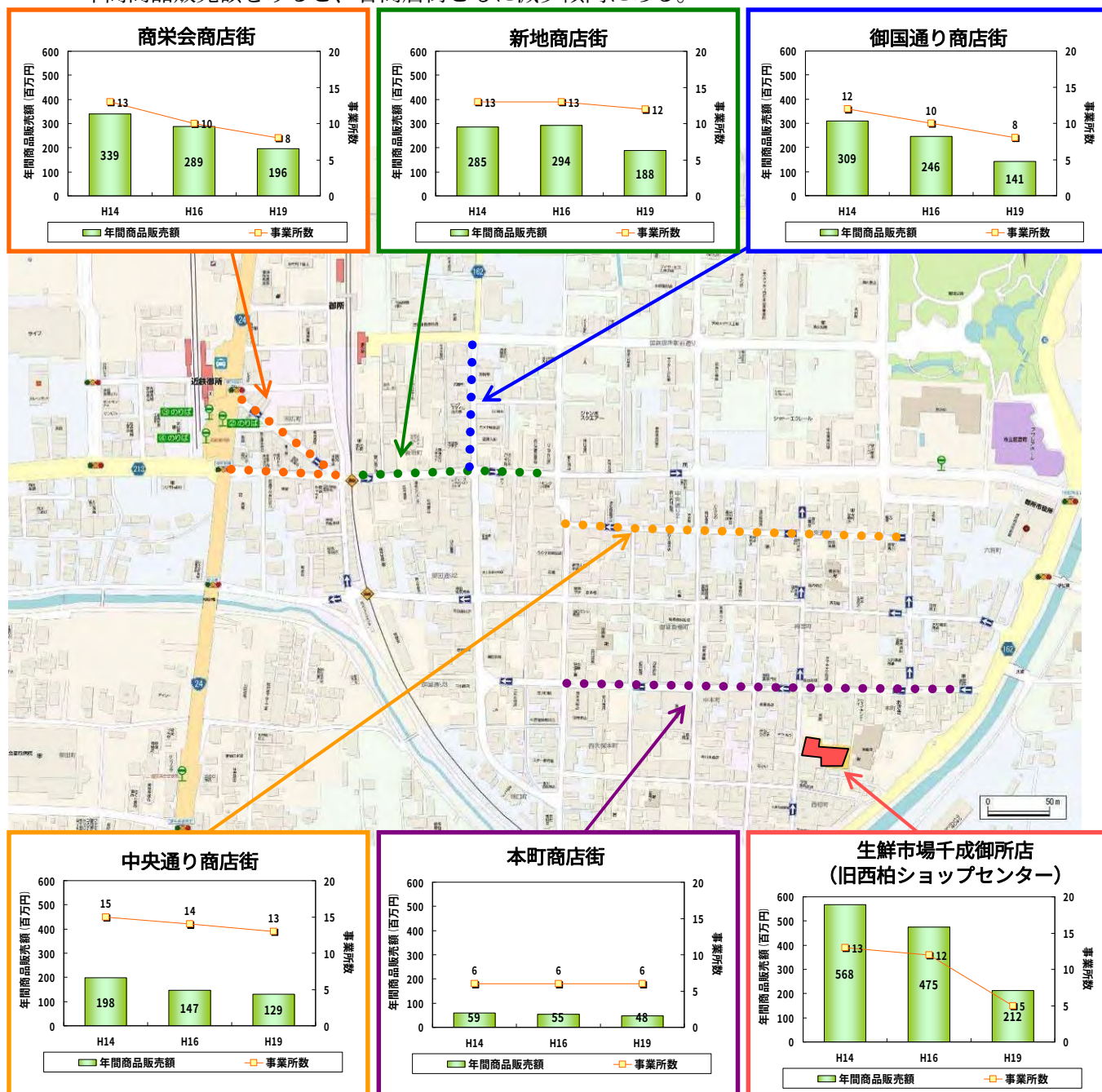
国道24号方面への交通が多い
末広商店街

図 3.4 駅周辺の商店街の現状

- 商店街別事業所数をみると、新地商店街は横ばい傾向だが、他商店街では年々減少の傾向にある。
- 年間商品販売額をみると、各商店街ともに減少傾向にある。

駅周辺の商店街別事業所数をみると、新地商店街は横ばい傾向だが、他商店街では年々減少の傾向にある。

年間商品販売額をみると、各商店街ともに減少傾向にある。



出典：商業統計表 立地環境特性格別統計編（平成 14 年、平成 16 年、平成 19 年）

図 3.5 事業所数と年間商品販売額の推移

3.3 駅前整備計画

御所駅周辺地区のまちづくり計画のなかで、駅前整備計画に係わるものを、以下に示す。

3.3.1 御所市第4次総合計画（平成13年3月）

(1) 都市基盤整備

1.京奈和自動車道の整備促進

広域権との交流・連携を推進し、地域のさらなる発展・活性化を図るため、京奈和自動車道の整備を推進します。またこれに連絡する国道・県道の改良を要望するとともに、幹線道路の整備・改良を図ります。

2. 京奈和自動車道御所南サービスエリア周辺の産業・交流拠点化

京奈和自動車道御所南サービスエリアについて、快適な駐車場や休憩施設を整備するとともに、観光・イベント情報などの情報発信や地域住民も対象とした地場産品販売などを行う交流施設の導入を検討します。またインターチェンジ予定地周辺の基盤整備などにより、流通業務、商業サービスなどの土地利用形成を誘導します。

3.市道の整備促進

市民の利便性と安全性の向上、人・物の交流と流通、観光資源の連携などを促進するため、都市計画道路の整備を推進するほか、安全な生活道路づくりを行います。

4.やさしく快適な道路環境の創造

来訪者・高齢者・障がい者などすべての人にやさしく快適な道づくりを推進します。

5.公共交通の充実

JR 和歌山線及び近鉄御所線の輸送力増強と利便性の向上をめざし、列車本数の増便などを関係機関に要望します。また、便利で安全な公共交通機関として既存バス路線の維持・充実、および整備完了幹線道路における新路線の設置を要望していきます。

6.情報化の促進

情報基盤の整備を各方面に要望していくとともに、市民生活や事業活動において積極的に IT（情報通信技術）化を進めていきます。このため、各種公共施設でインターネットなどを手軽に体験・利用できるなど、学校教育や社会教育の場で有効に活用する方法を検討します。

出典：御所市第4次総合計画 平成13年3月 御所市

(2) 生活環境の整備・充実

1.近鉄、JR 御所駅周辺地区の整備

近鉄、JR 御所駅周辺地区の整備を進め、公共駐車場の整備などにより交通結節性を強化するとともに、市の中核機能をにう拠点としての機能を充実します。

出典：御所市第4次総合計画 平成13年3月 御所市

(3) 地域商業の振興

1.経営力の強化

経営診断や商店街振興などの団体事業を継続して支援するとともに、消費者ニーズにあった品ぞろえ、決め細かなサービスの指導などを通じて特色ある商店街づくりを促進します。また、経営の合理化や販売技術の向上を促進し、経営の健全化を図ります。

2.中心市街地における商店街の振興

近鉄、JR 御所駅周辺整備や都市計画道路整備など市街地の改善などとあわせて活力ある商店街の再編成と商業機能集積のあり方を検討するとともに、良好な歴史的まち並み環境と調和した魅力ある商店街づくりに取り組みます。

3.地域産業の活性化

関係機関・団体と連携し、個性ある商店街活動や販売促進活動を促進します。また、事業の支援と地域商業の活性化のために、商工業振興対策助成事業などの積極的な PR と活用を促進し、経営の維持・発展を図っていきます。

出典：御所市第4次総合計画 平成13年3月 御所市

(4) 観光・レクリエーションの振興

1.観光資源の開発と体制の整備

観光協会や周辺住民と連携を図るとともに、これまで埋もれていた地域資源の掘り起こしや既存資源の質の向上、第一次産業や地場産業との連携などに努め、これらを互いに結びつけ、参加・滞在型の新しい観光事業の開発に努めます。

2.観光資源・観光環境の整備

自然景観、まち並み・集落景観、歴史・文化資源、文化財などの保護・保存と伝統行事や郷土芸能の保存、継承、育成に努めます。また、既存の観光施設の整備などを進め、うるおいある美しい観光環境を創造します。

3.観光・交流拠点の形成と相互連携

近鉄、JR 御所駅周辺整備とあわせて、休憩・情報・飲食・物販サービスを提供する拠点や自然・第一次産業を核として幅広い人びとにアピールできる集客・交流拠点や葛城の道・巨勢の道などとの連携を図ります。

4.観光客の誘致促進

観光資源の PR と情報提供のために、観光案内所の設置を図るほか、インターネットを活用した誘客宣伝の強化を進めます。また各種インターネットなどについては、関係機関・団体と連携し、魅力ある御所市をアピールしていきます。

(5) 土地利用の基本方向

出典：御所市第4次総合計画 平成13年3月 御所市

御所市における土地利用構想図を以下に示す。



出典：御所市第4次総合計画 平成13年3月 御所市

図 3.6 御所市土地利用構想図

3.3.2 御所市都市計画マスタープラン（平成 9 年 3 月）

(1) 土地利用の方針

1. 商業業務ゾーン

本市の玄関口であり中心市街地である JR 及び近鉄駅周辺地域においては、奈良中和地方拠点都市の中核的な商業業務地として位置づけ、商業業務施設の高度化、集積化を図るものとし、交通結節点、観光拠点等の中心核形成ゾーンを含む地域とする。

2. 近隣商業ゾーン

近隣商業ゾーンは、主として市民生活に密着した商業地域とし、中核的な商業業務地の周辺部に位置づけ、商店街の近代化及び活性化を図り、歴史的な町並みを生かしたデザイン等の検討が必要な地域とする。

3. 沿道サービスゾーン

京奈和自動車道、国道 309 号の結節点近傍に位置づけ、沿道型商業、業務施設、流通施設等の適切な立地誘導を図る地域とする。

4. 住宅ゾーン

現市街化区域内における既成の住宅を中心とする地域及び現在都市計画により市街化区域への編入を保留している地域に位置づけ、既成の住宅を中心とする地域は、生産緑地地区や環境保全要素(社寺及び文化財等)を留意しながら、市街化区域内農地及び未利用地の計画的な宅地整備を促進し、道路・公園等の施設の整備、誘導を図る。現在市街化区域への編入を保留している地域については、新市街地として都市環境の整った良好な住宅地形成を図るべき地域とする。

5. 住宅開発ゾーン

巨勢山丘陵地及び市北東部における民間による大規模な住宅開発予定地を位置づけ、自然環境及び農用地等の保全について調整しながら、低層低密度で良好な住宅地の形成を規制、誘導すべき地域とする。

6. 住工複合ゾーン

既成市街地における地場産業の振興、充実を図るため、市街化区域内の主として地場産業等の立地している地域を位置づけ、周辺の環境に留意しながら誘導、整備に努める地域とする。

7. 工業専用ゾーン

現市街化区域である御所工業団地及び北側部分を位置づけ、新規の比較的大規模で非公害型工場の誘致及び整備を図るべき地域とする。

8. 観光・レクリエーションゾーン

葛城山上周辺、金剛山上周辺、巨勢山丘陵地の運動公園をはじめとするスポーツレクリエーション施設を位置づけ、自然環境の保全と調和に留意しながら、整備、充実を図るべき地域とする。

9. 農業振興ゾーン

主として葛城川及び曾我川などに沿って広がる農業地域に位置づけ、まとまりある優良な農地について保全するとともに、ほ場整備などの農業生産基盤、既存集落地における生活基盤の整備を促進し、近代的な都市近郊型農業の発展を図るべき地域とする。

10. 森林・緑地保全ゾーン

金剛・葛城山地や巨勢・国見丘陵地を位置づけ、恵まれた自然環境を維持するため開発を抑制し、森林・緑地の保全を図るべき地域とする。

出典：御所市都市計画マスタープラン 平成 9 年 3 月 御所市

土地 利用 方 針 図

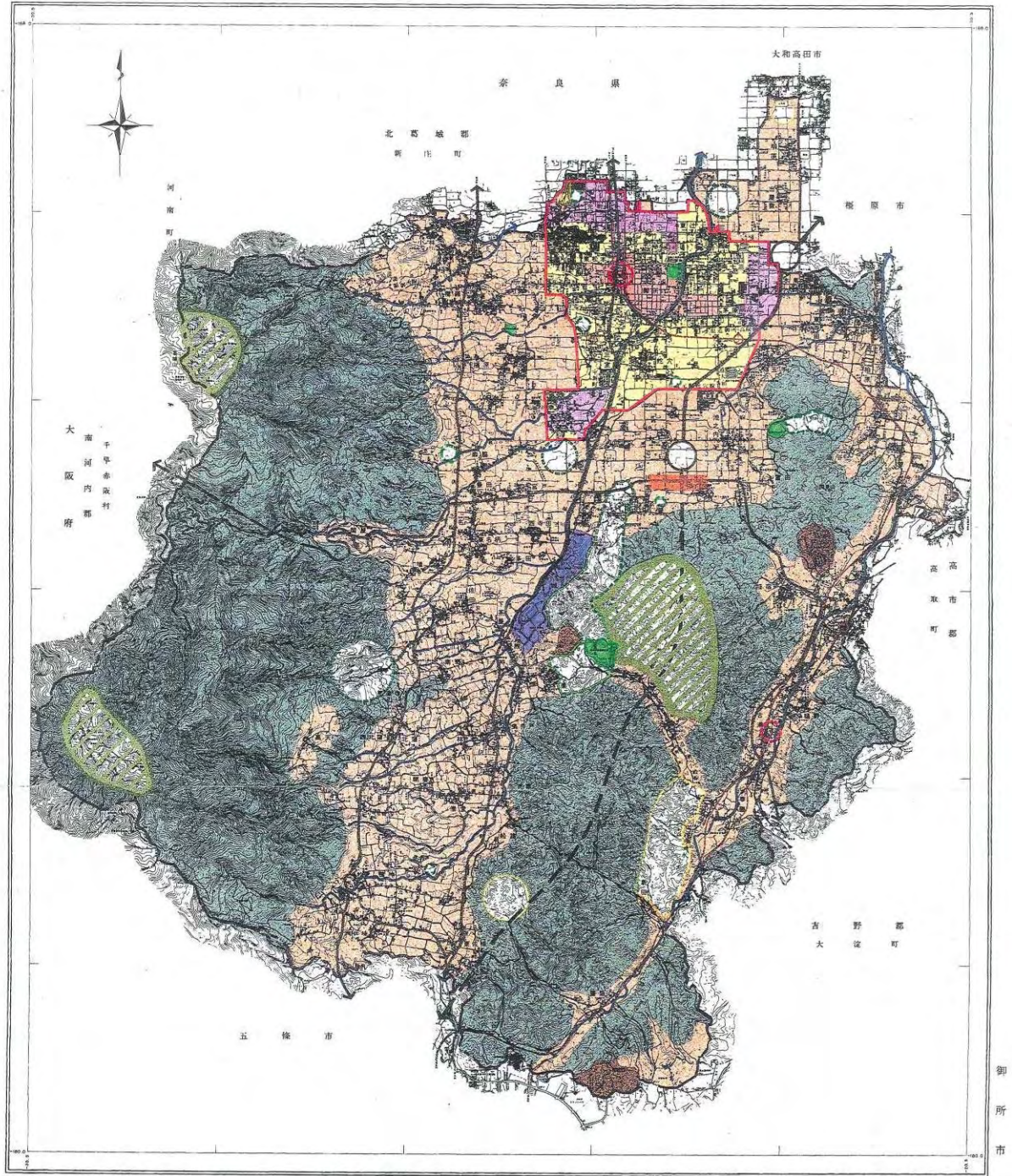


図 5-1

I N D E X			
	中心核形成ゾーン		京 東 和 自 動 車 道
	商 業 振 興 ゾ ー ン		幹 線 道 路
	近 隣 商 業 ゾ ー ン		河 川
	沿 道 サービスゾーン		主 要 な 公 園 供 給 地
	住 宅 ゾ ー ン		主 要 な 公 園 (現 況)
	住 宅 開 発 ゾ ー ン		主 要 な 行 政 サービス施設
	住 工 複 合 ゾ ー ン		主 要 な 供 給 処 理 施設
	工 業 専 用 ゾ ー ン		鉄 道
	観 光 ・レ ク リ ー シ ョ ン ゾ ー ン		市 街 化 区 域
	農 業 振 興 ゾ ー ン		都 市 計 画 区 域
	森 林 緑 地 保 全 ゾ ー ン		

出典：御所市都市計画マスタープラン 平成9年3月 御所市
 図 3.7 御所市土地利用方針図

(2) 近鉄御所駅及び JR 御所駅周辺における整備方針

1. 市街地開発方針

- ・ JR 及び近鉄御所駅周辺は、商業業務地の中心地として、又交通結節点としての中心核を形成すべき地域として、土地利用の集約化、建物の高層化、共同化することにより、オープンスペースを創出しかつ商業施設、観光拠点施設、駅前広場、駐車場、駅連絡路等の交通拠点施設の整備スペースを確保し、都市機能の充実を図る為、市街地再開発等により高度利用を推進する。
- ・ 上記の商業業務地の東側に位置する沿道型の既存商店街について、経営者、商店街組合の意向を踏まえた歴史的な特性を生かしたイメージアップ、活性化方策を推進する。

2. 都市施設整備の方針

- ・ JR 及び近鉄御所駅周辺は、利便性、効率性に加え、本市の玄関口であり中心核としての特色あるデザインとし、高齢者、身障者にやさしい設計による駅前広場、駐車場、自転車駐車場、JR 及び近鉄の両駅を結ぶ連絡路等の配置検討を行い、交通拠点施設の整備を行う。

3. 都市環境・景観形成等の方針

- ・ JR 及び近鉄御所駅を観光拠点とし、既存の「葛城の道」、「巨勢の道」を延長し JR 及び近鉄吉野口駅に至る市域の豊富な歴史的資源をループする散策道の整備を行い、途中地点には休憩施設を配置し、果物や野菜等の農産物、名産品の販売所等を設置するなどの整備を行う。

出典：御所市都市計画マスタープラン 平成9年3月 御所市

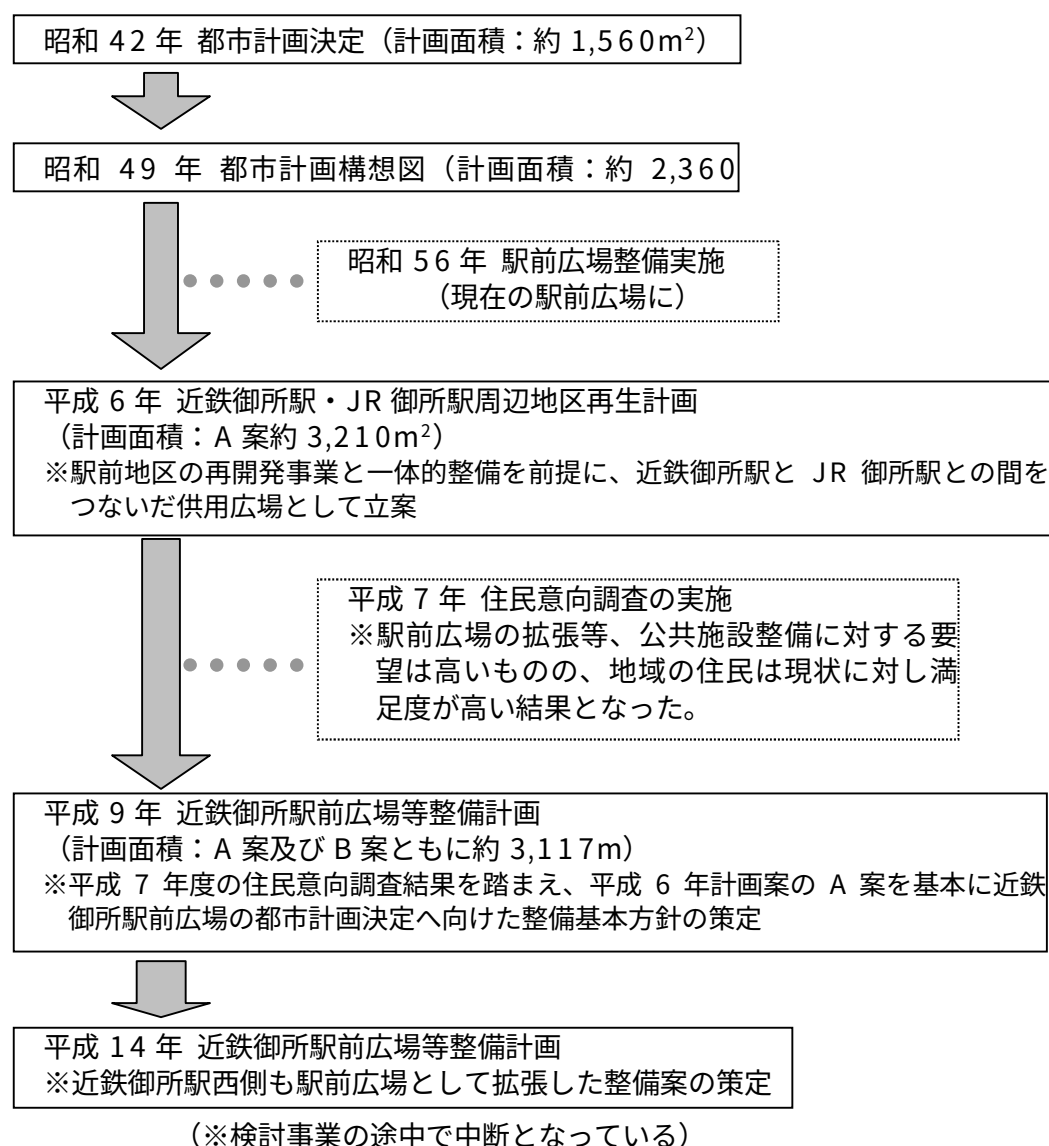
3.3.3 駅前整備に係わる既存計画

- 駅前整備計画は、市の財政状況悪化により現在のところ整備の目処は立っていない。

(1) 駅前整備計画の経緯

近鉄御所駅前広場は、昭和 42 年に都市計画決定以降、整備計画が数回検討されているが、昭和 56 年の整備以降は整備が行われていない。

近年では、平成 14 年に駅前広場計画案が検討されていたが、市の財政状況悪化により検討途中で中止となり、現在のところ整備の目処は立っていない状況にある。

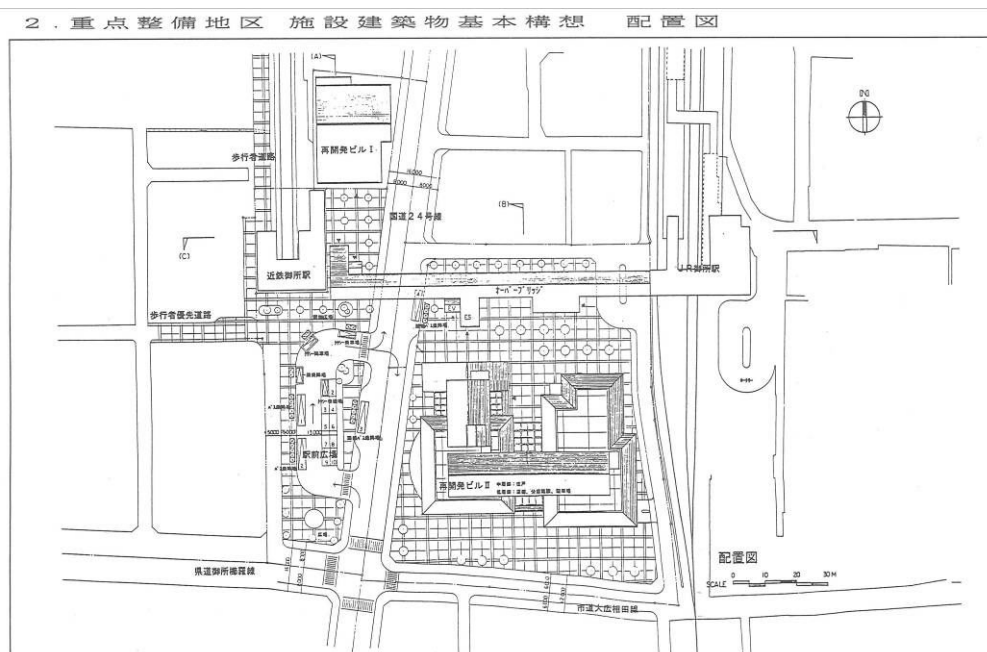


「近鉄御所駅前広場等整備計画報告書 平成 9 年 2 月 御所市」及び御所市資料をもとに作成

図 3.8 駅前整備計画の経緯

(2) 平成 6 年 近鉄御所駅・JR 御所駅周辺地区再生計画

立案された計画平面図を以下に示す。



出典：平成 6 年 近鉄御所駅・JR 御所駅周辺地区再生計画報告書 平成 7 年 3 月 御所市

図 3.9 平成 6 年 近鉄御所駅・JR 御所駅周辺地区再生計画における計画平面図

(3) 平成 9 年 近鉄御所駅前広場等整備計画

立案された 2 案の計画概要について、以下に示す。

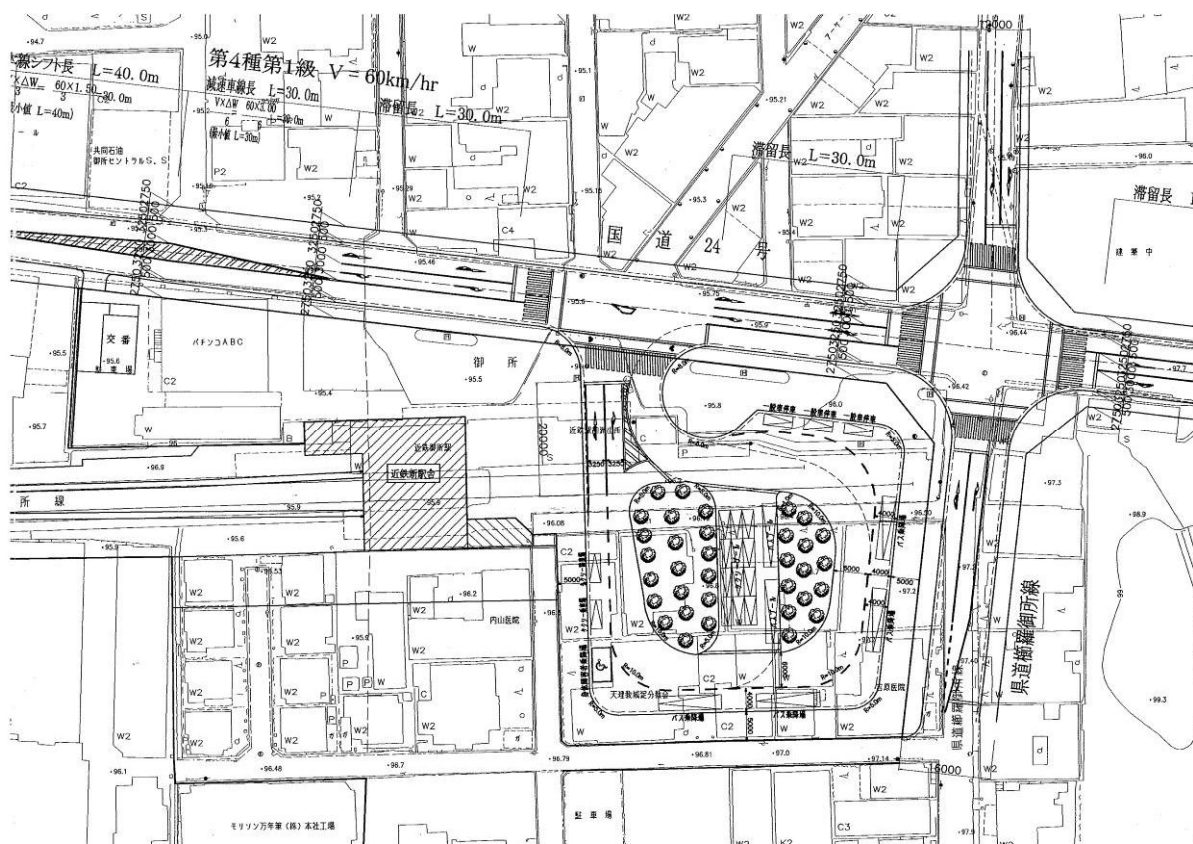
比較項目	A 案	B 案
計画略図		
計画概要	・広場出入口は各 1 カ所 ・歩行者は広場南端の横断歩道及び北側駅舎前の歩道橋により南・東地区よりアクセス ・駅舎位置を約 10m 北へ移設（改札位置は約 20m 北へ） ・広場西側の歩道前面にバス乗降を配置、広場中央の交通島にタクシー・一般車乗降を配置	・広場出入口は各 1 カ所 ・歩行者は広場南端の横断歩道及び北側駅舎前の歩道橋により南・東地区よりアクセス ・駅舎位置を約 30m 北へ移設（改札位置は約 40m 北へ） ・歩道前面にバス、タクシー、一般車の乗降を連続 ・広場東側にタクシー待機バス、一時利用駐車スペースを設置

出典：近鉄御所駅前広場等整備計画報告書 平成 9 年 2 月 御所市

図 3.10 平成 9 年近鉄御所駅前広場等整備計画における駅前広場計画案の概要

(4) 平成 14 年度近鉄御所駅前広場等整備計画

検討については、検討事業途中で中断となったが事業中における最終案の計画平面図を以下に示す。



出典：御所市資料

図 3.11 平成 14 年度近鉄御所駅前広場等整備計画における計画平面図

3.4 交通結節機能の状況

3.4.1 駅前広場整備状況

- 近鉄御所駅の東側に駅前広場があり、路線バス・コミュニティバスが乗入っていますが、JR 御所駅は広場やアクセス道路が未整備ため、路線バス・コミュニティバスの乗り入れができません。
- JR 及び近鉄御所駅周辺に駐輪場が 3 箇所整備されていますが、いずれも駅から離れた位置にあります
- 朝夕のラッシュ時には、キス&ライドによる送迎車が多く見られます。
- 駅前広場や待合施設は、老朽化が否めず、またバリアフリーな空間になっていません。

駅前広場は、近鉄御所駅の東側に整備されており、路線バス、コミュニティバス（ひまわり号）、タクシー、一般送迎車の乗降スペースが整備されています。

近鉄御所駅の東側に位置する JR 御所駅は、駅前広場やアクセス道路が未整備のため、路線バスやコミュニティバスは、アクセス出来ません。

駐輪場は、JR 及び近鉄御所駅周辺に 3 箇所整備されていますが、駅前広場周辺にはなく、駅から離れた位置にあります。

一般送迎車のスペースは、広場北側と南側に整備されており、朝夕のラッシュ時には、キス&ライドによる送迎車が多く見られます。

駅前広場や待合施設は、老朽化が否めず、またバリアフリーな空間になっていません。

JR及び近鉄御所駅周辺の状況



近鉄御所駅前広場の状況

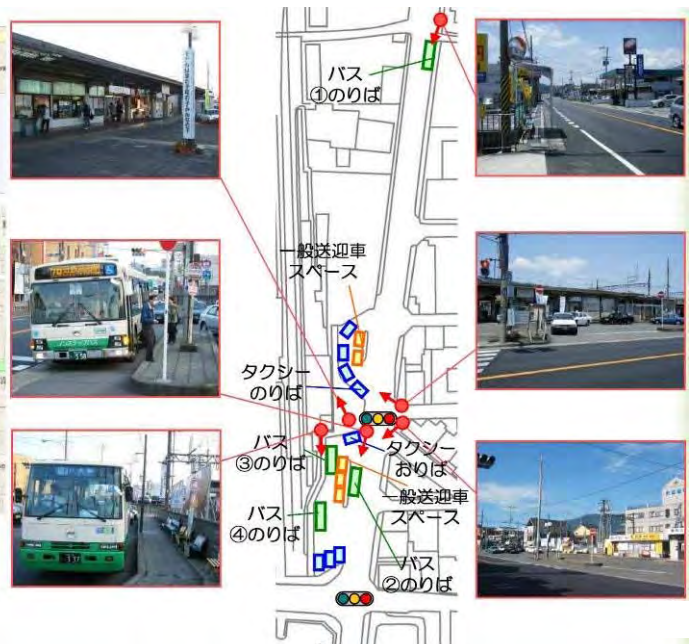
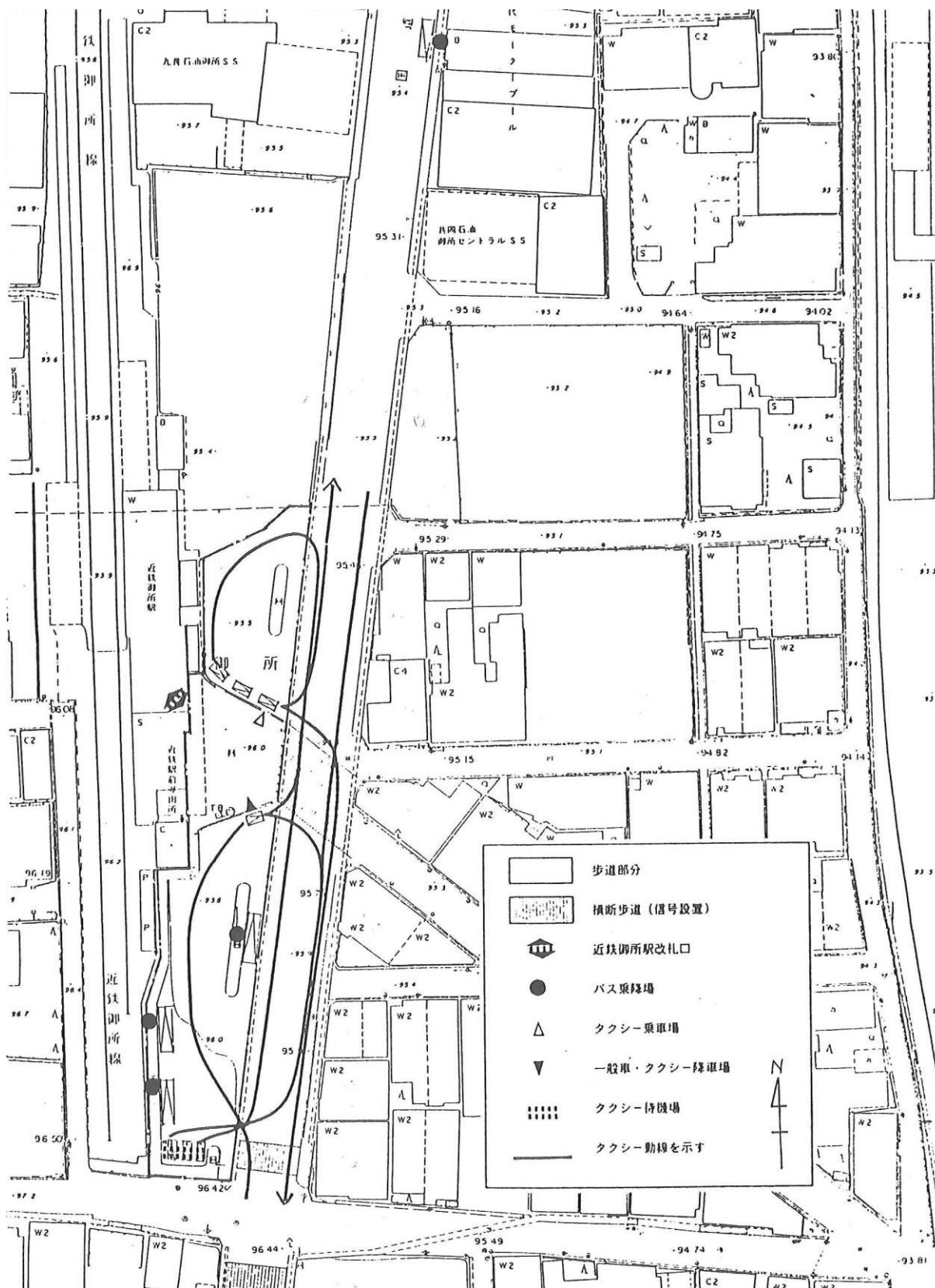


図 3.12 近鉄御所駅前広場の状況



出典：近鉄御所駅前広場等整備計画報告書 平成9年2月 御所市

図 3.13 近鉄御所駅前広場の現況平面図

3.4.2 御所駅前の改善ニーズ

(1) 駅前問題改善のための施策

- 改善策として意向が高い施策は、「駅前の待合スペースを再整備」、「駅前のバス停に屋根を設置」、「駅前の観光案内所を充実」である。

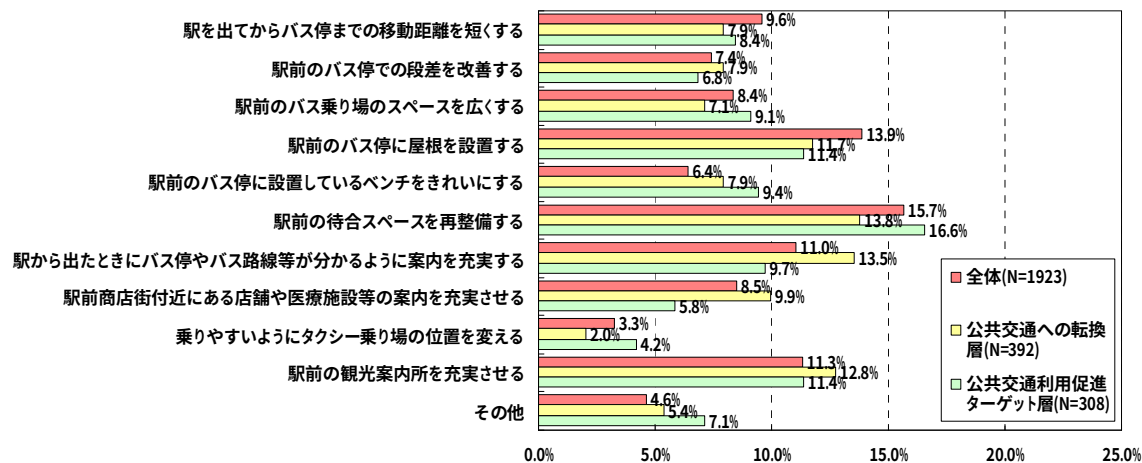


図 3.14 駅前問題改善のための施策

3.4.3 鉄道駅同士の結節状況

- 近鉄御所駅と JR 御所駅の改札間は、直線距離は、約 130mと近いが、国道 24 号や JR 和歌山線を横断する必要があるため、一部狭隘区間もあり不便です。
- 乗り継ぎルートの案内サインも未整備です。

JR 御所駅と近鉄御所駅の改札間の直線距離は、約 130mと近いが、乗継ルートは最短で約 300m あります。国道 24 号や JR 和歌山線を横断する必要があるため、信号待ちや踏切により時間を要する場合もあり、乗継ルートの一部は狭隘な区間があります。また、乗り継ぎルートの案内は未整備です。



近鉄御所駅前に国道 24 号があり横断する必要がある



商栄会商店街と新地商店街の間に踏切あり



JR 御所駅から新地商店街を結ぶ細街路

3.4.4 鉄道駅とバス停の結節状況

(1) JR 御所駅及び近鉄御所駅

- 五條・新宮方面に向かう路線バスのりばが、近鉄御所駅から北へ約 100m 離れた国道 24 号沿いにあるため、鉄道駅からの乗り換えは不便です。

路線バス・コミュニティバスは、近鉄御所駅の駅前広場にアクセスしていますが、JR 御所駅にアクセスしていません。そのため、JR 御所駅から近鉄御所駅の駅前広場へ移動する必要があります。

五條・新宮方面に向かう路線バス①のりばが、近鉄御所駅から北へ約 100m 離れており、国道 24 号を横断する必要があります。また、JR 御所駅からは約 400m 離れており、JR 和歌山線の踏切を横断する必要があります。両鉄道駅からの乗り換えは不便です。



3.4.5 鉄道駅及び鉄道駅最寄りのバス停におけるサイン案内

(1) 鉄道駅におけるサイン案内

- JR 御所駅では近鉄御所駅及び同駅バス乗り場に関する簡単な案内があるものの、近鉄御所駅では JR 御所駅に関する案内がないなど、乗り継ぎ等に関する情報提供は不十分な状況にある。

表 3.1 鉄道駅における案内サインの設置状況

事業者	路線	駅名	接続する交通機関	状況
JR 西日本	和歌山線	御所駅	○近鉄御所駅 ○奈良交通 御所市コミュニティバス 近鉄御所駅前バス停	・改札口前の掲示板上に簡易の近鉄御所駅及び近鉄御所駅バスのりばの案内図を掲示。 ・駅前のタクシーのりばにタクシーが2～3台待機している。 ・タクシーのりばには、タクシー事業者の連絡先の案内がある。
近鉄	御所線	近鉄御所駅	○JR御所駅 ○奈良交通 御所市コミュニティバス 近鉄御所駅前バス停	・改札口頭上にバスのりば案内図がある。 ・JR御所駅までの案内はない。 ・タクシーのりばは改札口前に位置しており、連絡先及び主要箇所までのおおよその料金案内がある。 ・タクシーは、のりばに4～5台待機している。



近鉄御所駅改札口前



JR 御所駅構内

図 3.16 案内サイン設置状況

(2) 鉄道駅最寄りのバス停におけるサイン案内

- 御所駅周辺のバス停の一部は駅から離れた位置にあるが、案内サインが不十分でそれを把握できないなど、鉄道とバス間の乗り継ぎを円滑に行うことが困難な状況にある。

図 3.17 鉄道駅最寄りのバス停における案内サインの設置状況

事業者	バス停名称	接続する鉄道駅	状況
奈良交通	近鉄御所駅	近鉄御所駅 JR御所駅	・案内はないが、バス停から近鉄御所駅を確認することが出来る。ただし、①のりばは、駅から北側に100m離れており、近鉄御所駅を確認出来ない。 ・全てのバスのりばにおいて、JR御所駅への案内はない。

3.5 活性化のための取り組みの現状

3.5.1 御所駅前活性化に向けた取り組み

(1) 御所駅前活性化検討委員会による取り組み

- 御所駅周辺の活性化に向けて、地元が参画する委員会が組織され、検討が行われており、「ゲート」「ベンチ」「閉鎖している駅売店の活用」「駅前老朽建物の景観への配慮」「駅前標語タワーの取り扱い」に関する5つの提言が出されている。

御所市では、御所駅前の活性化に向けた協議を行うため、駅前商業者・住民、全市の商業・観光関係者、市民（公募）により構成される「御所駅前活性化検討委員会」を立ち上げている。そこでは、平成21年1月から10月まで計7回の会議を経て、以下の「提言書」が取りまとめられている。

平成21年10月27日

御所市長 東 川 裕 様

御所駅前活性化検討委員会
会 長 森 田 定 和

提 言 書

御所駅前活性化検討委員会において、これまで御所駅前の活性化を図るための協議を行ってまいりましたが、次のとおり当委員会として方策をまとめましたので、提言いたします。

提 言 骨 子

1. 来訪者に対してPRを行い、近鉄御所駅前から商店街を経て、御所まちに人の流れを生み出すために、駅前商店街のアーチ型看板等に“おもてなしの言葉”を表示し、ウェルカムゲートとして活用することを提言します。
2. 駅前の美観を図り、駅利用者に憩える場を提供するために、既設の巨大な広告入りのベンチ、また材質、規格が揃わないベンチを撤去し、広告無し又は小スペースの広告入りのベンチ、若しくは木製等でできた統一感のあるベンチに取り替えることを提言します。
3. 駅前という来訪者や利用者の多い立地を生かし、御所市をPRするために、現在閉鎖している駅売店を活用することを提言します。
4. 駅前の景観のイメージアップを図るため、駅前の老朽化した建物に対し、所有者と改修等の調整を行い、有効活用することを提言します。
5. 『御所市の顔』として駅前のイメージアップを図るため、市の標語タワー等については、駅前の広場スペースに合わせて縮小するか、又は駅前以外の場所に移設することを提言します。

(2) 早大生による奈良県御所市活性化への提言

- 早稲田大学と奈良県の連携事業において、御所駅周辺に対して学生の視線・視点から検討が行われており、「町屋・水路」「ものづくり」「商店街活性化」「教育」という4つの分野から提言が出されている。

早稲田大学・奈良県連携事業の一環として「中心市街地の商圈分析調査（対象地域：御所駅及びごせまち周辺）」が企画・実施されており、平成21年11月に中間報告が出されている。これは、早大生が現地調査を行い、学生の視線・視点から御所市に提言を行うという手法を採っており、「町家・水路」「ものづくり」「商店街活性化」「教育」という4つの分野から、以下の「提言」が出されている。

早稲田大学・奈良県 連携事業

早大生による奈良県御所市活性化への提言

中間報告

平成21年11月16日

早稲田大学教育学部箸本研究室

1. 町家・水路ワーキンググループ

【提案内容】

- ①伝統的な町家を保存・活用していくための提案
 - a. 町家オーナー制度
 - b. 登録有形文化財の認定
 - c. 民泊の実施
- ②背割下水を活かすための提案
 - a. 背割下水を中心に据えた「水と音」のイベントー風鈴祭（仮称）の開催
- ③御所まち来訪者の回遊性を高めるための提案
 - a. 「鬼瓦スタンプラリー」の実施
 - b. まち歩きモデルコースの作成
- ④その他（現在検討中の提案内容）
 - ・町家交換日記（町家内で情報共有、町家のネットワークづくり。参考として新聞の投書欄。）
 - ・地面に町家のみどころに向けた足跡を付ける（見せたい景色を提示）
 - ・NPOや商工会とは別に歴史保存会を作る。
 - ・町家子供施設（準児童施設、町家の活用の一例、教育と関連）
 - ・葛城山と御所まちを繋げた歴史ツアー（すでに NPO ごせまちネットワーク創のイベントとして存在している）

2. ものづくりワーキンググループ

【提案内容】

- ① 御所との結びつきについて明瞭な「物語性」を持つ新商品を開発する
 - a. 近鉄御所駅を利用するハイカーを対象に「御所弁当」を提供する
 - b. 御所の伝統産業のコンセプトを継承した商品開発を行う
- ②統一ブランドマークを作る
- ③高品質製品の大消費地展開
- ④ものづくり体験を通じた地域活性化
 - a. 内部（主に御所市内など近隣在住者）向けの「ものづくり体験」イベント
 - b. 外部（観光客）向けの「ものづくり体験」イベント
- ⑤「もの」と「人」との接点となるスペースの確保
- ⑥既存製品の「二次機能」の掘り起こしを行う

3. 商店街活性化ワーキンググループ

【提案内容】

実行案	具体的な内容	得られるメリット	課題
コミュニティ・スペース	・担い手としては大学生、ボランティアガイドを想定 ・色々な主体が自由に使うことができる ・商店が主催の朝市を行う	・費用がそれほどかからない ・さまざまな主体の連携の拠点になる	・スペースの活用が担い手次第になってしまう ・地権者との折り合いをどうつけるか
大学生・大学院生の研究拠点	・御所をフィールドとして、研究活動をしてもらう。 ・市でバックアップをする代わりに、研究成果を発表してもらう※	・「ワカモノ」のアイデアを取り込める	・毎日大学生が駐在するのは難しく、殺風景になるかも…… ・大学生がどれほど主体的に動いてくれるかが不透明
コミュニティカフェ	・商店街への来街者に対しての飲食を提供するスペース	・人が気軽に集まれる食事処ができる	・誰がつくるのか ・維持・運営が難しい ・メニューはどうするのか
ボランティアガイドの事務所	・ごせまちネットワーク「創」の事務所を商店街の一角に構える	・駅に近い場所に事務所を開設することで、NPOにとってメリットが ・商店街と御所まちとの連携拠点	・開設費用
御所まちギャラリースペース	・御所まちの歴史的な遺産を展示するスペース	・御所まちのアピールの場・観光客の流れを生み出せる	・貴重な資料のため維持管理が難しいのではないかな ・協力してくれるか
御所市出張所	・御所市役所の一部の部署を商店街の一角に移転する	・人の流れが商店街の中に生まれる ・毎日の人の往来が期待できる	・御所市の財政との兼ね合い ・市のこういった機能を出張所に移せるか
小学生向けのスペース(子供の居場所を街につくる)	・主体は大学生 ・利用者は小学生 ・学童保育のようなイメージで、小学生の学習を大学生がサポート	・子供たちの居場所・(大学生が来れば)比較的取り組みやすい ・効果的な取り組みがなされれば、子どもたちが御所まちに誇りを持つことも可能になる ・子供が集まれば、子ども向けのお店が出店する可能性もある	・大学生に頼る部分が大きく、効果のある取り組みとなるか不透明
新地商店街自治会館	・商店街の通りに、自治会館を移転する	・商店街の人が気軽に利用できるようになり、商店街のコミュニティ機能の再生に寄与	・費用はどうするのか ・費用は自治会費になってしまう可能性もあるが、中心市街地活性化の助成金を得てはどうか。また、市からの助成もほしい
高齢者向けコミュニティスペース	・高齢者が気軽に集まるスペース ・囲碁や将棋といった活動などを展開	・高齢者の割合が多いということで、人が集まりやすい ・子供向けのスペースと連動した活動も期待できる(高齢者が子供に囲碁などを教える)	・管理者は誰か
マンスリーショップ	・月ごと、あるいは週ごとに異なった店を入れる	・商店街としても、新しい店が入るとどうなのか、実験的に体感できる ・出店側としても反応を知ることができ、初期投資などに関わるリスクも低いと考えられる ・商店街の商業としての機能を再生する可能性がある	・地権者との兼ね合い ・行政や商店街側がどこまで支援できるか(スペースの賃料の補助など)

4. 教育ワーキンググループ

【提案内容】

①社会教育への提案

- 伝統的建築物の写生
- オリエンテーリング
- 勉強会

②学校教育との連携についての提案

- 他地域(学校)との交流
- 情報発信

3.5.2 御所まちにおけるまちづくりの取り組み

- 御所駅周辺に位置する御所まちでは、歴史的な街並みが残されており、それを大切にしたいNPOにより、案内パンフレットの作成などの啓発をはじめとする各種取り組みが行われている。



4. 商店街の実態把握の調査概要

4.1 調査の概要

4.1.1 調査目的

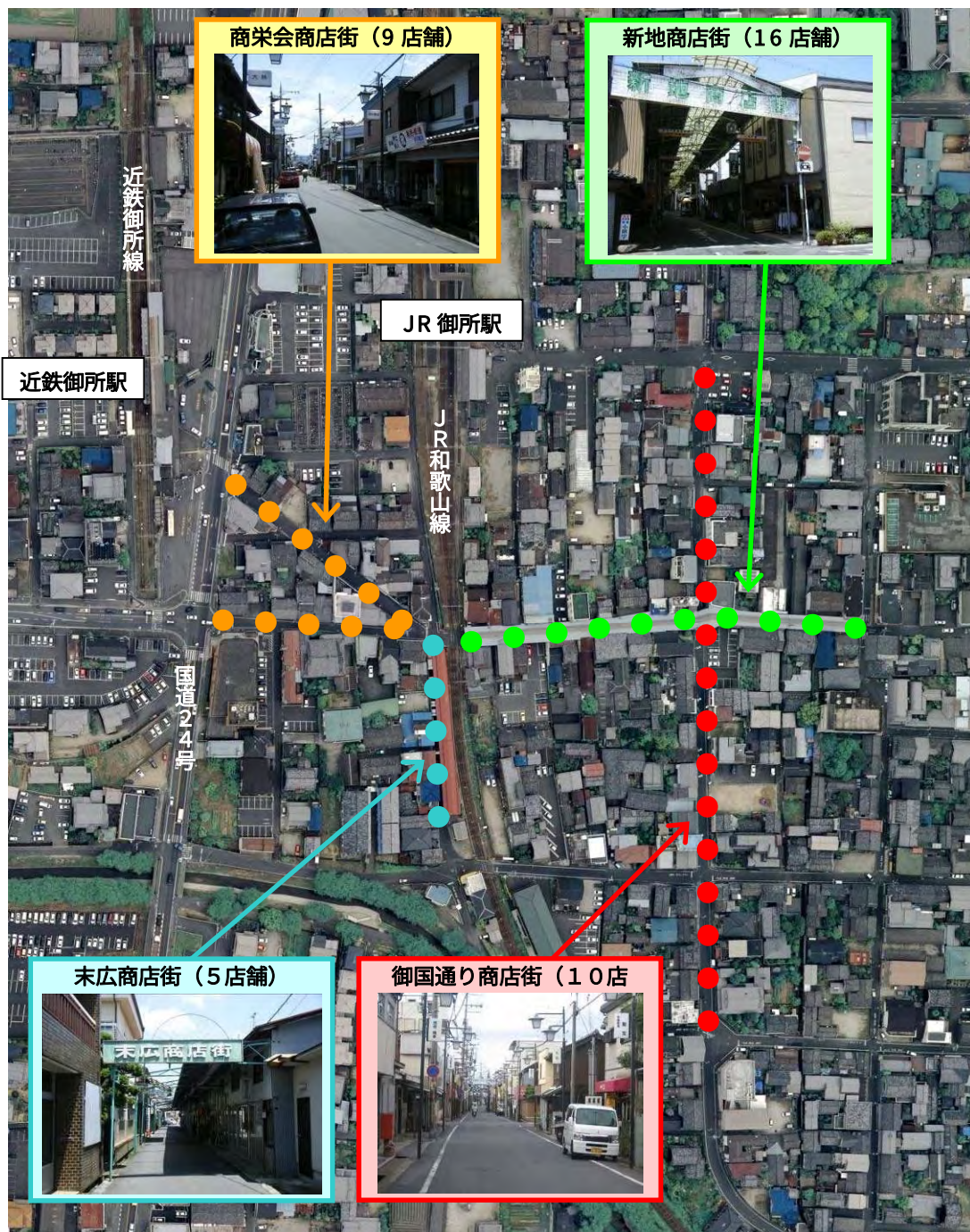
商店街の経営者から見た商店街の現況、公共交通に関するニーズ、駅前整備のあり方や駅周辺の活性化に向けた意向について把握することを目的とした。

4.1.2 調査日

平成 21 年 10 月 4 日（日）・9 日（金）の 2 日間（※各店舗開店時間中に実施）

4.1.3 調査対象者と調査地点

商栄会商店街、末広商店街、新地商店街、御国通り商店街の全ての店舗（計 40 店舗）



4.1.4 調査方法

各店舗への訪問アンケート（ヒアリング調査もしくは留め置き調査）

※了承を得ることが出来ればヒアリング形式とし、店舗の業務に影響が想定される場合、調査票を調査対象店舗に渡して記入してもらい、それを後日回収する留め置き調査とした。

4.1.5 アンケート調査票の回収数

名称	対象店舗	10月4日 (日)	10月9日 (金)	回収数 合計	備考
商栄会商店街	9	6	3	9	
末広商店街	5	3	1	4	※拒否 1 店舗あり
御国通り商店街	10	9	2	11	1 店舗で 2 業態の 店舗から 2 票回収
新地商店街	16	9	6	15	1 店舗で両日とも に休業で調査不可
計	40	27	13	40	

※高齢を理由にアンケート調査を拒否

4.1.6 設問項目

設問項目		回答方式	ねらい
あなたのお店について	・店舗の営業場所	選択式	基本属性の把握 (クロス集計用)
	・住まいの場所		
	・性別		
	・年齢		
	・業種		
	・経営年数		
	・従業員数		
	・1日あたりの来店者数		
	・自動車の利用状況		
	・店舗の権利関係		
	・継続営業の意思		
	・転業する場合、どの業種に転業するか。またその理由		
	・廃業する場合、その理由		
御所駅前商店街について	・商店街の人通りが閑散となった要因とその時期	選択式	駅前商店街の現況把握、効果的な活性化策の抽出
	・御所駅前商店街が、にぎわい、活力ある商店街に変わる必要の有無		
	・御所駅前商店街の活性化に必要なこと		
	・商店街での自動車の通行について		
	・特に自動車の通行を規制すべき商店街は		
	・御所駅前商店街を活性化するためのアイデア	記入式	
JR及び近鉄御所駅前の整備について	・駅前整備の方向性 (日常利用者を対象、観光客を対象、観光客及び日常利用者ともに考慮、現状のまま)	選択式	駅前整備に対する意向の把握、効果的な利用促進策の抽出
	・駅周辺の活性化に必要なこと		
	・御所駅前を活性化させるためのアイデア	記入式	
その他	・御所市の公共交通活性化のためのアイデア	記入式	

4.2 調査結果

4.2.1 御所駅前商店街の形態

問1 営業場所 (○ n=40)

- 1位:「新地商店街」37.5%
- 2位:「御国通り商店街」27.5%
- 3位:「商栄会商店」25.5%

問2 住まいの場所 (○ n=40)

- 1位:「店舗兼住居」70.0%
- 2位:「住居は御所市内」25.0%
- 3位:「住居は御所市外」5.0%

問3 性別 (○ n=40)

- 1位:「男」52.5%
- 2位:「女」47.5%

問4 年齢 (○ n=40)

- 1位:「65～74歳」32.5%
- 2位:「55～64歳」25.0%
- 3位:「45～54歳」15.0%

⇒アンケート回答者平均年齢: 60.8歳
御所市平均年齢: 48.4歳 (平成20年10月)

問5 営む主な業種 (◎N=40、n=40)

- 1位:「衣料品店」25.0%
- 2位:「その他食料品店
(米・飲料・酒類・惣菜など)」15.0%
- 3位:「飲食店」10.0%

問6 経営年数 (○ n=40)

- 1位:「20年以上」92.5%
- 2位:「10～19年」7.5%

問7 従業員数 (○ n=40)

- 1位:「1人」40.0%
- 2位:「2人」30.0%
- 3位:「3～4人」22.5%

問8 1日平均来店者数 (○n=40)

- 1位:「10人未満」52.5%
- 2位:「10～29人」32.5%
- 3位:「30～49人」15.0%

問9 (1) 店舗での自動車の利用状況 (○n=40)

- 1位:「自動車を利用する」65.0%
- 2位:「自動車を利用しない」35.0%

問9 (2) 自動車の保有台数 (○n=26)

- 1位:「1台」53.8%
- 2位:「2台」26.9%
- 3位:「4台」11.5%

問10 店舗の営業形態 (○n=40)

- 1位:「店舗建物・土地ともに所有し営業」65.0%
- 2位:「店舗建物のみ所有し営業」22.5%
- 3位:「テナントとして営業」10.0%

問11 お店の5年後くらいの将来について (○n=38)

- 1位:「現状のまま維持する」76.3%
- 2位:「廃業する」21.1%
- 3位:「現在地で投資を行い、商いを拡大」2.6%

問12 どのような業種に転業するか (○n=0)

※ 該当なし (問11で「転業する」と回答した人がいないため)

問13 廃業する理由 (○n=10)

- 1位:「後継者がいない」、「高齢のため」、
「売上げが減少し、利益が出ないため」各n=3
- 2位:「体調を悪くしたため」n=1

【御所駅前商店街の現状】

- ・「店舗兼住居」が、70%を占め、回答者の平均年齢は、61歳と高齢で、経営年数は20年以上を超える店舗が93%を占める。10年未満の店舗の回答はなかった（図4.1）。
- ・従業員数が、1人～2人の店舗が70%であり、家族的経営の店舗が、多くを占める。
- ・1日平均来店客が、10人未満の店舗が53%を占め、50人を超える店舗はないのが現状である（図4.2）。
- ・店舗で自動車を利用するのは、65%と多い。

【店舗の5年後の将来】

- ・「現状のまま維持する」が76%だが、「廃業する」との回答は、21%を占めた。（図4.3）
廃業理由は、「後継者がいない」、「高齢」、「売り上げ減少」などがあげられた。

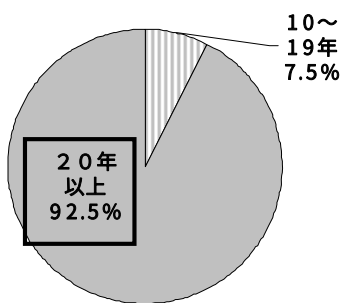


図4.1 経営年数

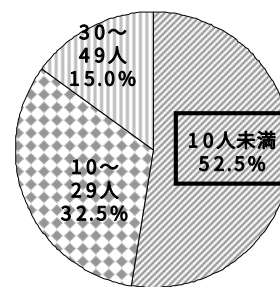


図4.2 1日平均来店者数

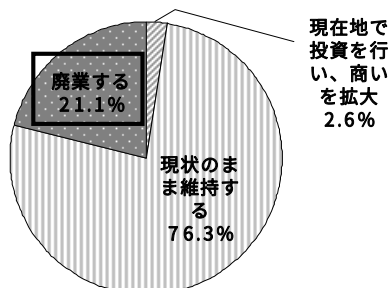


図4.3 お店の5年後くらいの将来について

4.2.2 御所駅前商店街の活力

問14 (1) 商店街の人通りが閑散となった要因 (自由記入N=56、n=30)

- 1位：「大型店舗やスーパーマーケットの進出」N=24
- 2位：「人口の減少」N=5、
- 3位：「高齢化」、「駐車場がないため」、「商業集積力の低下」、「スーパー（ジャンボスクエア）が撤退したため」各N=4

問14 (2) 商店街の人通りが閑散となった時期 (○n=36)

- 1位：「10年前頃から」、「20年前頃から」各30.6%
- 2位：「15年前頃から」13.9%
- 3位：「15年～20年前頃から」5.6%

問15 にぎわい、活力ある商店街に変わる必要の有無 (○n=37)

- 1位：「必要がある」83.8%
- 2位：「今のままで良い」16.2%

問16 御所駅前商店街の活性化に必要なこと (◎N=65、n=30)

- 1位：「自動車の駐車場所を整備」29.2%
- 2位：「親子や高齢者等が集まるコミュニティスペースを配置」16.9%
- 3位：「自転車の駐輪場所を整備」12.3%

※ ○：単一回答、◎：複数回答、n：回答者数、N：総回答数を示す。

[商店街の活力低下の要因と時期]

- ・商店街の集客力が低下した原因は、「大型店舗やスーパーマーケットの進出」といった外的要因との認識である。
- ・商店街の集客力が低下した時期は、10年以上前からとの回答が97%を占め、長期的に活力の低下がすすんでいる。

[活性化の必要性と必要な取り組み]

- ・「活力ある商店街に変わる必要がある」との回答が、84%と多い一方で、廃業意向の店舗も多くあることから、「今のままでよい」との回答も16%を占める（図4.4）。
- ・活性化に必要な取り組みとして、「自動車の駐車場所を整備」が最も多く、自動車での買い物客を取り込む取り組みを望む店舗が多い。次に、「親子や高齢者等が集まるコミュニティスペースを配置」や「自転車の駐輪場所の整備」に対する取り組み意向が強い（図4.5）。

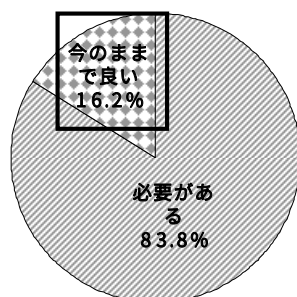


図4.4 にぎわい、活力ある商店街に変わる必要の有無

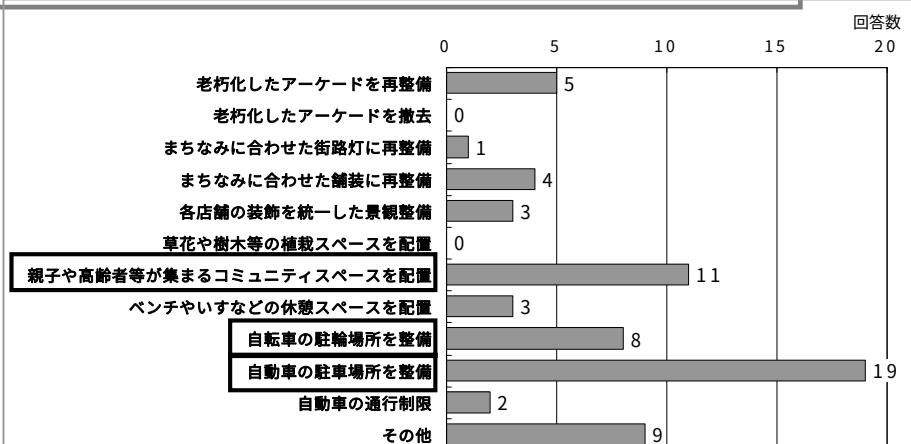


図4.5 活性化に必要な取り組み

4.2.3 御所駅前商店街の活性化

問17 商店街での自動車の通行について (○n=38)

- 1位：「自動車でお店の近くまで行き、買い物できるようすべき」50.0%
- 2位：「今のままで良い」31.6%
- 3位：「安心して買い物ができるように自動車の通行を規制すべき」18.4%

問18 特に自動車の通行を規制すべき商店街 (○n=7)

- 1位：「新地商店街」33.3%
- 2位：「末広商店街」25.0%
- 3位：「商栄会商店街」、「その他」各16.7%

問19 御所駅前商店街を活性化するためのアイデア (自由記入N=25、n=20)

- 1位：「生鮮食料品や飲食店といった業態・店舗を増やす」N=6
- 2位：「駐車場を整備」N=4
- 3位：「空き店舗の活用」N=3

【商店街の自動車通行】

- ・商店街の自動車と歩行者の通行区分に対する意見は、「自動車でお店の近くまで行き、買い物できるようすべき」が半数を占める（図4.6）。 「今のままでよい」という意見は、32%にとどまり、交通環境の改善が望まれる。
- ・自動車の通行を規制すべき商店街は、国道24号から御所市役所方面への自動車交通が見られる「新地商店街」の指摘が多い。

【商店街の活性化アイデア】

- ・核店舗（ミニスーパー等）の誘致のために商店街のみならず、行政として、何らかの措置を。例えば、出店者に対する優遇措置として、固定資産税の免除とかの対応で協力を考慮してもらいたい。
- ・閉店している店を活用。例）アンテナショップなど。
- ・60歳以上のお客さんに月に1回、商店街全体で例えば10%引きなどの特典を与える。

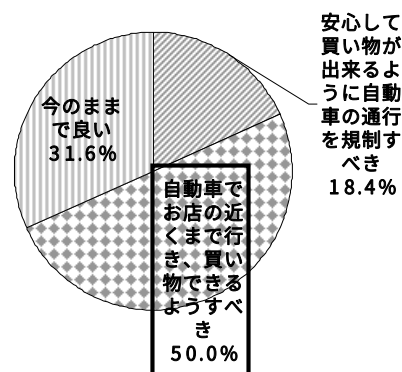


図4.6 商店街での自動車の通行について

4.2.4 御所駅前の改善ニーズ

同20 JR及び近鉄御所駅前整備の方向性 (○ n=38)

- 1位:「日常に使う人及び観光客ともに対象とした整備をするべき」71.1%、
- 2位:「通勤・通学等で日常に使う人を対象とした整備をするべき」13.2%、
- 3位:「観光地に訪れる観光客を対象とした整備をするべき」
「現状のままでよい」各7.9%

同21 JR及び近鉄御所駅前を活性化させるために必要なこと (◎N=48、n=25) (日常に使う人及び日常に使う人と観光客を対象と回答した方)

- 1位:「駅前の待合スペースを再整備」、
「駅前商店街付近にある店舗や医療施設等の案内を充実」各14.6%、
- 2位:「駅を出てからバス停までの移動距離を短く」、
「駅前のバス停に屋根を設置」10.4%、
- 3位:「駅前のバス乗り場のスペースを広く」8.3%

同22 JR及び近鉄御所駅前を活性化させるために必要なこと (◎N=69、n=30) (観光客及び日常に使う人と観光客を対象と回答した方)

- 1位:「鉄道利用による観光を強化」23.2%、
- 2位:「駅周辺を歩いて周遊できるモデルルートを設定」18.8%、
- 3位:「駅から駅前商店街やごせまち界隈等への案内を充実」17.4%

同23 御所駅前を活性化させるためのアイデア (自由記入N=18、n=16)

- 1位:「明るくして雰囲気良くする」N=3、
- 2位:「空き店舗の活用」、「観光客を商店街に誘導させる」等各N=1

同24 御所市の公共交通活性化するためのアイデア (自由記入N=20、n=20)

- 1位:「バスの運行本数を増やす」N=4、
- 2位:「JRの運行本数を増やす」N=3、
- 3位:「近鉄線とJR線の乗り継ぎをスムーズに」N=2

[駅前整備の方向性]

- ・駅前整備の方向性に対する賛意が高かったのは、「日常に使う人及び観光客ともに対象とした整備をするべき」である。

[駅前活性化のための取り組み]

- ・通勤・通学等で日常に使う人を対象とした整備に必要な取り組みとして、「駅前の待合スペースの再整備」、「駅前商店街付近にある店舗や医療施設等の案内を充実」が15%を占め、駅利用者を商店街へ取り込む取り組みを望む店舗が多い(図4.7)。
- ・観光客を対象とした整備に必要な取り組みとして、「鉄道利用による観光を強化」が23%、「駅周辺を歩いて周遊できるモデルルートを設定」が19%を占め、観光PR や商店街を観光ルートの一部へ取り込む取り組みを望む店舗が多い(図4.8)。

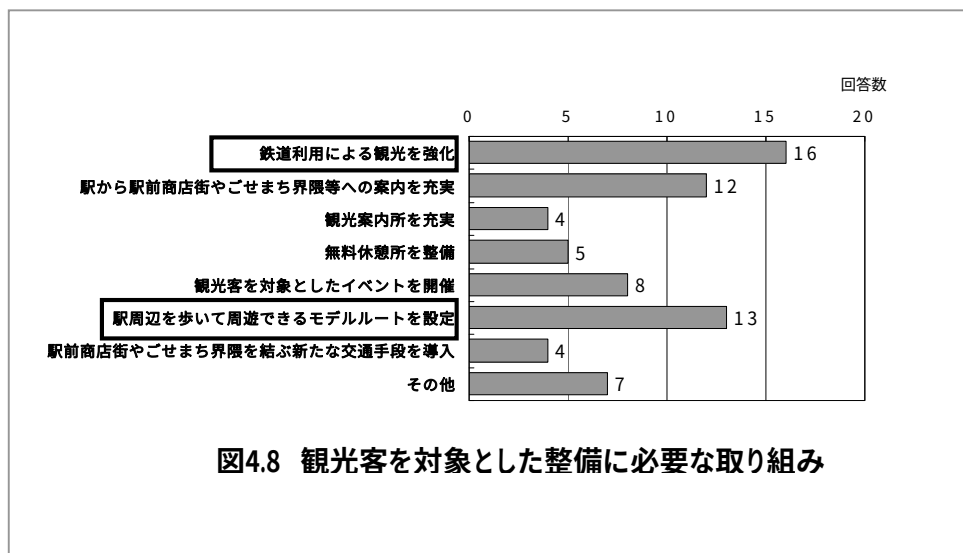
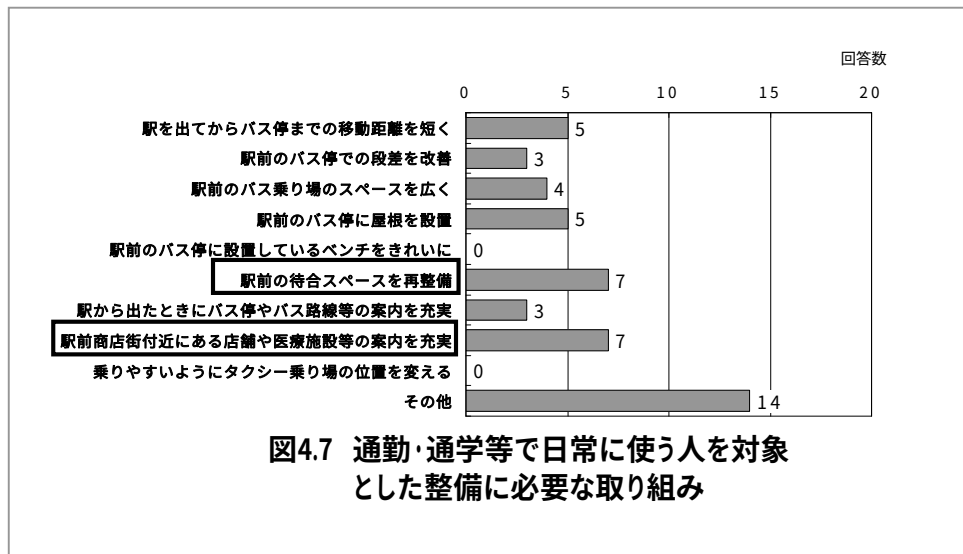
[駅前の活性化アイデア]

- ・今の場所では、商店街の活性化は無理せめて日常に生活する人、観光客にシャッター通りは見せたくない。一般の住家と商店とが共生出来る様な美しい町並みになればと思う。
- ・帰宅する観光客が御所駅に到着してから休憩できる飲食店(喫茶店)を商店街内や周辺につくる。

[公共交通の活性化アイデア]

- ・コミュニティバスの利用者数を市民に公表や路線を増やしたり、区間を短くしたり、柔軟な対応を。
- ・J Rと近鉄の連絡を良くする。
- ・J Rの運行本数を増やすべき。

※ ○:単一回答、◎:複数回答、n:回答者数、N:総回答数を示す。



5. 御所駅周辺地区の課題整理

5.1 御所の玄関口としての課題

御所の玄関口		現状等	課題
まちの概況	○市は、奈良県の大和平野の西南部に位置し、西部に金剛山・葛城山が峰を連ね、東南部の丘陵地から平地の広がる緑豊かな田園都市。豊かな自然や悠久の歴史・文化遺産を今に伝える、ロマン漂う生活文化都市 ○県都奈良市へは約 25km、大阪の都心部へは約 30km の距離。昼・夜間人口比 0.915		
人口	○市人口は、平成20年10月1日現在、31,244人（昭和40年比14%減）・12,346世帯。高齢化率は29%と超高齢社会 ○今後も人口減少が続く見込み。		
生活利便施設	○御所駅周辺地区の人口は、昭和 40 年比で 45%減 ○御所駅周辺は、商業地域に指定されており、御所駅東300mに御所市役所や市立図書館、50m西に大型店（ライフ）が集まる御所市の中心		
御所駅前活性化検討委員会による提言	○駅前という来訪者や利用者の多い立地を生かし、御所市をPRするために、現在閉鎖している駅売店を活用することを提言します ○駅前の景観のイメージアップを図るため、駅前の老朽化した建物に対し、所有者と改修等の調整を行い、有効活用することを提言します ○『御所市の顔』として駅前のイメージアップを図るため、市の標語タワー等については、駅前の広場スペースに合わせ縮小するか、又は駅前以外の場所に移設することを提言します		
	■歴史・文化遺産を今に伝える 都市や御所まちの最寄り駅に 相応しい顔づくり ■定住人口減少による活力低下を補う、交流人口の呼び込み ■市の中心市街地に相応しい 風格や、市民・観光客が集まる ことによる賑わいの再生		

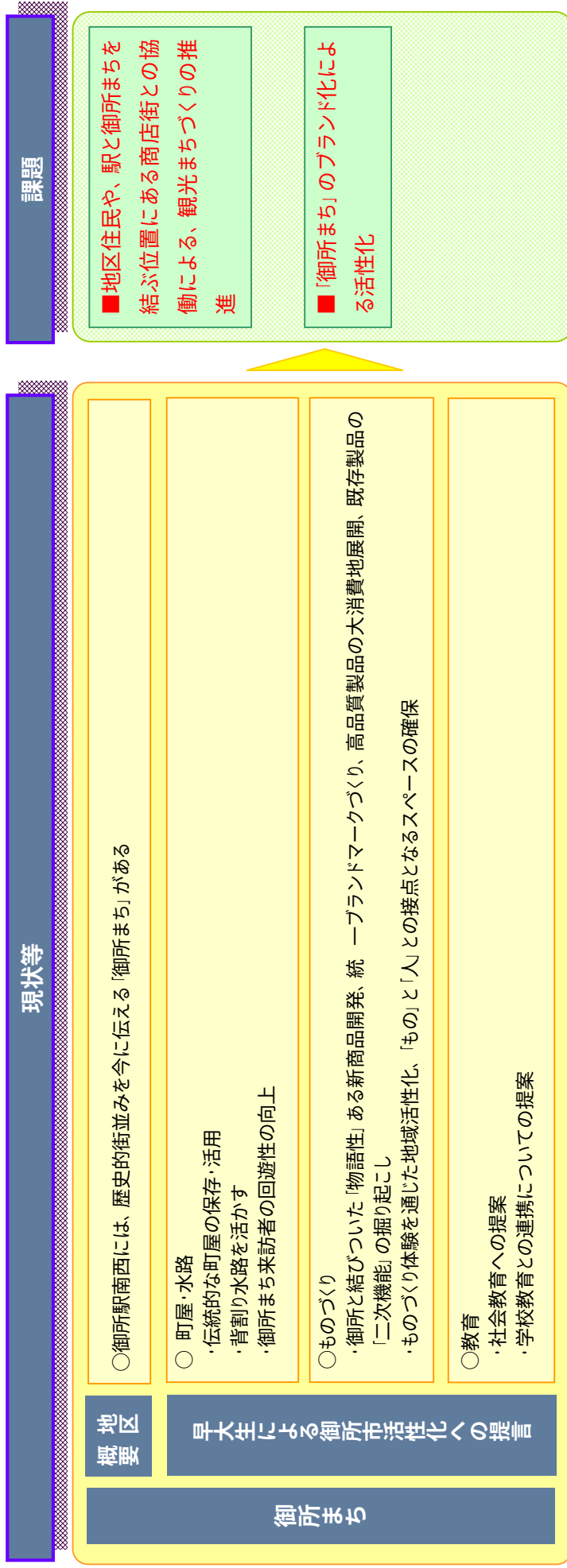
5.2 御所駅前の環境についての課題

御所駅前の環境		現状等	課題
御所駅前の環境	駅利用状況	○近鉄御所駅、JR 御所駅があり、近鉄御所駅が年間約 100 万人の利用がある市の玄関駅 ○両駅まで「徒歩」で行く人が 39%と最も多く、つづいて「自転車」25%で、「自家用車（送迎）」も 13% ○御所まちには歴史的建造物等に曳かれた少なからずの観光客が集まる	■通勤・通学や観光等で、御所市に出入りする人が、快適な駅前環境づくり（特に、徒歩やバスとの乗換利用に配慮して）
	駅周辺都市基盤施設の状況	○近鉄御所駅は近鉄御所線の終着駅。国道24号に面する東側に駅前広場があるが、広さ等が不十分 ○平成14年に駅前広場再整備計画があげられたが、検討途中で中止 ○近鉄御所駅の60m東にJR御所駅があるが、駅前広場やアクセス道路が脆弱 ○近鉄側に改札口等が無く、乗り換えには大きな迂回が必要だが、乗り継ぎ利用は9%と少ない ○駅前広場の待合い施設は、老朽化し、バリアフリーな空間となっておらず、案内サインも未整備	■御所まちへの最寄り駅としての、駅での積極的な情報の発信
	住民ニーズ	○JR及び近鉄御所駅前の問題点改善に必要なことは - 「駅前待合いスペースの再整備（15.7%）」 - 「駅前バス停への屋根設置（13.9%）」 - 「駅前観光案内所の充実（11.3%）」	■再整備計画中止の経緯や近鉄ーJRの乗り継ぎ需要を踏まえた、小規模改善型での優先順位に留意した交通結節点の環境づくり
	御所駅前活性化検討委員会による提言	○駅前の美観を図り、駅利用者に憩える場を提供するために、既設の巨大な広告入りのベンチ、また材質、規格が不揃いなベンチを撤去し、広告無し又は小スペースの広告入りのベンチ、若しくは木製等でできた統一感のあるベンチに取り替えることを提言します	

5.3 御所駅前商店街についての課題

御所駅前商店街		課題
御所駅前活性化検討委員会による提言	御所駅前商店街の状況	■御所駅前の商店街の特性を踏まえた、まちづくりの推進 （御所まちへの近さや、今後10年で商店街環境が大きく変化すると予想される中で）
	住民ニーズ	■商店街周辺を訪れる住民の商店街への吸引促進（車で近くまで訪れた人の回遊促進）
	商業者ニーズ	■商店主が望む、現状尊重型の緩やかな商店街活性化の取り組み
	その他	
御所駅前活性化検討委員会による提言	御所駅前活性化検討委員会による提言	○H19小売業は、商店数305（H16比16%減）、従業者数1,700人（同5%減）、年間商品販売額38,626百万円（同18%増） ○近鉄御所駅西側には、物販中心の「商栄会（9店舗）」「末広（5店舗）」「新地（16店舗）」「御国通り（10店舗）」からなる4商店街が連なり、御所まちへと続いている。 ○店舗形態は「店舗兼住宅（70.0%）」、経営者の年齢は「55歳以上（70.0%）」、店舗1日平均来店者数は「10人未満（52.5%）」、「10～29人（32.5%）」 ○営業形態は「土地・建物ともに所有（65.0%）」、「店舗建物のみ所有（22.5%）」、「テナントとして営業（10.0%）」 ○ゲートやアーケード等、商店街施設の老朽化 ○よく行く買物先は「ライフ御所店（32.4%）」で、目的は「食料品の買い物（86.9%）」、移動手段は「自動車（55.2%）」が最多 ○商店街利用者は17.0%、目的は「銀行（24.9%）」「食料品の買い物（20.2%）」の順で、移動手段は「自動車（40.0%）」「自転車（22.5%）」の順 ○商店街での自動車通行は、「お店近くまで行けるようにすべき（46.2%）」、「自動車の通行を規制すべき（26.7%）」 ○にぎわい、活力ある商店街に変わる必要は「ある（83.8%）」 ○整備方向は「日常に使う人及び観光客ともに対象とした整備をするべき（71.1%）」で、「日常利用者向け」で必要なことは「待合スペース整備（14.6%）」等 ○活性化に必要なことは「自動車駐車場の整備（29.2%）」で、自動車の商店街通行は「お店の近くまで行き、買い物できるようにすべき（50.0%）」 ○来訪者に対してPRを行い、近鉄御所駅前から商店街を経て、御所まちに人の流れを生み出すために、駅前商店街のアーチ型看板等に“おもてなしの言葉”を表示し、ウェルカムゲートとして活用することを提言します。
	早大生による提言	○商店街活性化（商業中心ではなく、コミュニティ中心として） ・駅入口から商店街にかけての交通規制（入り口部の修復と交通規制） ・商店街のルールづくり（商業地・住宅地の関係整理） ・コミュニティスペースの設置（高齢者・子ども拠点や御所まちと連携した拠点など）
	その他	○「商栄会」「新地」区間は（都）大広相田線（W=12m）が未整備で、通過交通も通り、安全・快適に歩けない。

5.4 御所まちについての課題



6. 御所駅を中心としたまちづくり計画

これまでの整理、検討を踏まえ、御所駅を中心とするまちづくり計画を作成した。

ここでは、御所駅周辺の商店街等の活性化を考えるにあたっての全国の商店街活性化事例を調査し、そこで得た知見も活用しながら設定した「御所駅を中心としたまちづくり計画」の基本方針に基づき、これを具体化する7つの事業を以下に示します。

なお、事業実施にあたっては、計画策定主体である御所市と関係機関において協議し、必要な調査・調整を行いながら進めます。

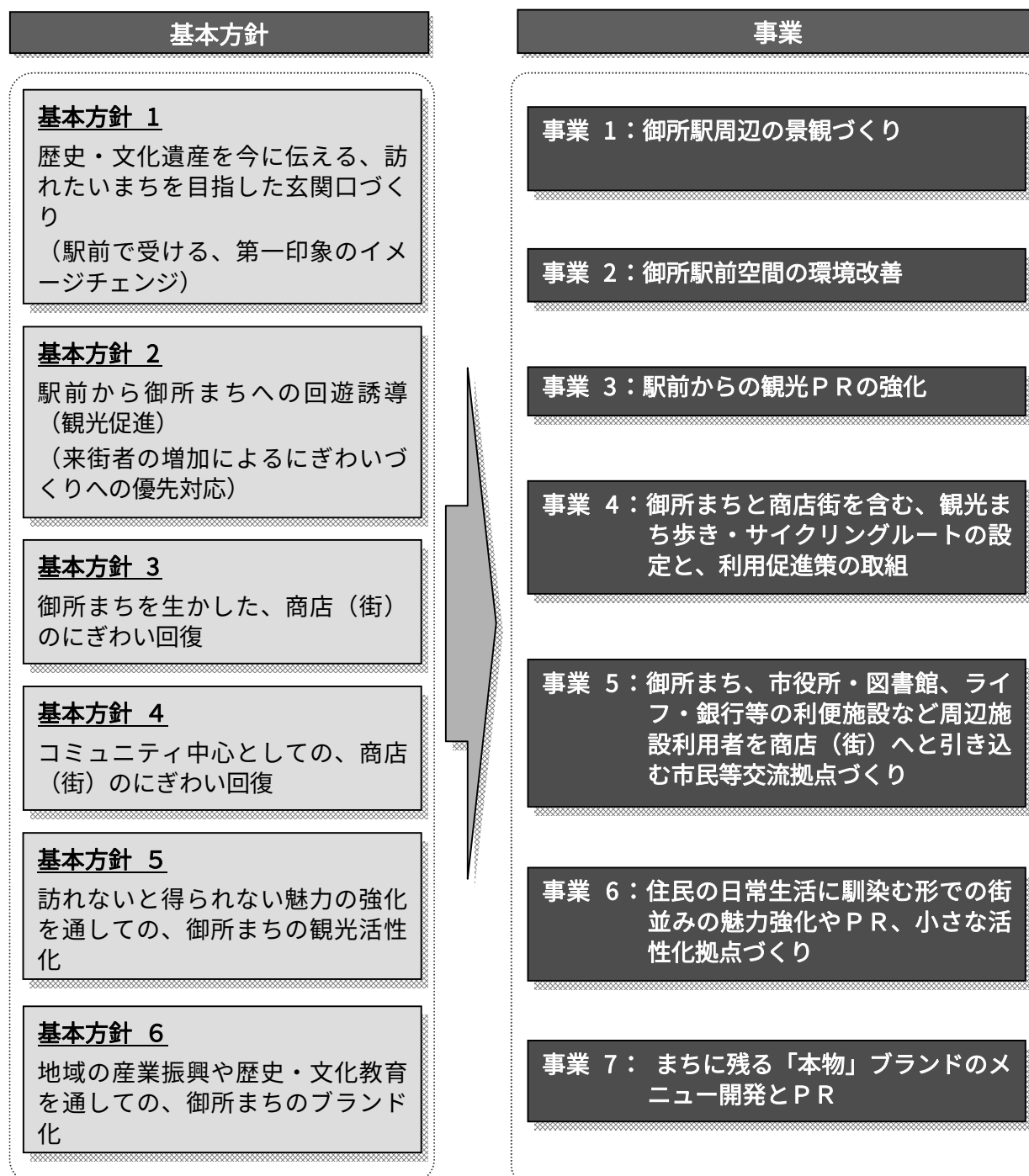


図 6.1 基本方針に基づく事業

表 6.1 基本方針一覧

基本方針 1 歴史・文化遺産を今に伝える、訪れたいまちを目指した玄関口づくり (駅前で受ける、第一印象のイメージチェンジ)	御所市は、豊かな自然や悠久の歴史・文化遺産を今に伝える都市であり、市の鉄道玄関口である御所駅周辺をそのイメージにふさわしくしていくことが望まれます。 また、御所市では、近年定住人口が減少し、今後も高齢化等を背景に減少が見込まれ、それにともない、御所駅利用者も減少すると考えられます。そのため、御所駅周辺地域を活性化させるためには、交流人口を増加させることが重要となることから、来街者をもてなし、訪れたくさせられるような、良い第一印象を与えられる玄関口づくりを目指します。
基本方針 2 駅前から御所まちへの回遊誘導（観光促進） (来街者の増加によるにぎわいづくりへの優先対応)	御所駅周辺地域により多くの来街者を呼び込むためには、駅周辺に位置する観光資源である「御所まち」を上手く活用することが望まれる。 そのためには、御所駅で「御所まち」等に関する観光情報を積極的に発信し、駅を訪れた人に一歩足を延ばしてもらうことが効果的であると考えられることから、駅をはじめ、駅から「御所まち」に至る誘導路のポイントとなる場所でサインによる内等を行い、回遊を誘導することにより、駅周辺でのにぎわいづくりを目指します。
基本方針 3 御所まちを生かした、商店（街）のにぎわい回復	駅から「御所まち」を訪れる人が増えても、商店街が単に通過されるだけでは、御所駅周辺地域に大きな活性化効果を期待することはできません。 そのため、商店街を通過する観光客の増加を商店街にとってのビジネスチャンスと捉え、より多くの人をお客さんとして取り込み、商店（街）のにぎわい回復に役立てられるような、地元の創意工夫による取り組みの支援を図ります。
基本方針 4 コミュニティ中心としての、商店（街）のにぎわい回復	観光客を商店街の新たなお客さんにする一方で、従来からのお客さんである市民（特に周辺住民）を商店街に呼び戻すことも、商店街のにぎわい回復、ひいては御所駅周辺地域の活性化に重要となります。 そのため、駅西側の大型店や商店街東側の市役所・図書館等の公共施設に多くの市民が訪れていることに着目し、市民が一歩足を伸ばして商店（街）を訪れたいくなるような仕掛けづくり等を行い、コミュニティの中心としての機能回復を図ります。
基本方針 5 訪れないと得られない魅力の強化を通しての、御所まちの観光活性化	「御所まち」により多くの来街者を呼び込むためには、「御所まち」そのものの魅力を強化すること、なかでも現地に足を運ばなければ得ることができない魅力を強めることが重要になります。 そのため、現在「御所まち」にある歴史的な街並みを守りつつ、より多くの人々が「訪れて楽しい」と感じるような仕掛け作りやサービスの提供等について、地元が充実・強化していけるような取り組みの支援を図ります。
基本方針 6 地域の産業振興や歴史・文化教育を通しての、御所まちのブランド化	「御所まち」現地の魅力強化と合わせ、「御所まち」由来の商品等をより多くの人々が魅力的だと感じるようにすることができれば、そこからより多くの人々が「御所まち」について知るようになると考えられます。 そのため、地域の産業振興や歴史・文化教育の振興を図り、より強力な情報発信を支援するなどで、「御所まち」そのもののブランド化を図ります。

本市における御所駅周辺地域活性化計画の具体的な事業計画について、以下に概要を示す。
 なお、それぞれの計画の内容については、次頁以降に示す。

表 6.2 事業計画一覧

事業計画	概 要
1. 御所駅周辺の景観づくり	御所市は、豊かな自然や悠久の歴史・文化遺産を今に伝える、ロマン漂う生活文化都市です。しかし、近年、市人口は減少しており、市役所、図書館等の公共公益施設が集積する御所駅周辺地区は、より大きな減少率となっています。 このような状況を踏まえ、市の活力や市民のわがまちへの愛着低下が危惧されることから、まずは多くの市民や観光客が利用し、目に触れる機会の多い「御所駅周辺」において、市民にとって誇りとなり、観光客等が訪れたいと感じるような景観づくりを図ります。
2. 御所駅前空間の環境改善	御所駅は、多くの市民等に利用されており、なかでも近鉄御所駅は年間約 100 万人が利用する市の玄関駅です。駅利用者は、駅まで徒歩（40%）、自転車（25%）のほか、自家用車（送迎）やバス等で移動しており、「駅前待合いスペースの再整備」など、快適な乗り換え環境づくりへの住民ニーズが高くなっています。 このような状況を踏まえ、駅前広場でのバス・タクシー・送迎車等の再配置に合わせ、駅前空間での快適な移動及び乗り換え環境づくりを図ります。
3. 駅前からの観光PRの強化	御所駅は、歴史的な街並みの残る「御所まち」に近接した位置にある駅であり、市の活性化という観点からの観光振興を図るため、また、観光客には鉄道等の待ち時間を有効活用し、より楽しんで頂くため、駅前から御所まちへの回遊を誘う観光PRの強化が重要となっています。 このような状況を踏まえ、駅前空間～商店街区間～御所まちへと、より多くの観光客等が流れるよう、できるところから整備等を図ります。
4. 御所まちと商店街を含む、観光まち歩き・サイクリングルートの設定と、利用促進策の取組	御所駅前に位置する商店街では、近年訪れる人が減っており、商業者も「にぎわい、活力ある商店街」への再生を望んでいます。一方で、商店街の東には観光資源の御所まちがあり、西側には観光客が訪れる御所駅があります。 このような状況を踏まえ、駅を訪れた観光客に御所まちの魅力を、また御所まちを訪れた観光客には駅からの自転車・バス等利用も含め、市内に点在する他の観光資源を楽しんで頂くため、さらには、御所まちと駅の間に位置する商店街には増加するであろう観光客に視点を置いた活性化に取り組んでもらえるような、観光まち歩き・サイクリングルートの設定と、利用促進策の取組を図ります。

5. 御所まち、市役所・図書館、ライフ・銀行等の 利便施設など周辺施設 利用者を商店（街）へ と引き込む市民等交流 拠点づくり	御所駅前に位置する商店街では、近年訪れる人が減っており、商業者も「にぎわい、活力ある商店街」への再生を望んでいます。一方で、御所まちだけでなく、商店街の周辺にある市役所・図書館、ライフ・銀行等の利便施設など、商店街の周辺にある施設には多くの市民が日常的に訪れています。 このような状況を踏まえ、周辺施設を訪れた市民等に、ついでにでも商店街を訪れてもらえるような、市民等交流拠点づくりを図ります。
6. 住民の日常生活に馴染む 形での街並みの魅力強 化やP R、小さな活性 化拠点づくり	御所駅の南東には、市民が誇れる歴史的街並みのある「御所まち」があり、「霜月祭」の開催時等には、多くの観光客が訪れる観光地になっています。一方で御所まちには多くの人が今も住み、日常生活を送る場となっています。 このような状況を踏まえ、住民等の理解を得ながら、御所市や近隣商店街の振興のためにも、より多くの観光客が訪れる場にしていくことが望まれるため、住民の日常生活に馴染む形での歴史的街並みのP Rや、観光客を呼び込み、もてなす理由となるような、小さな活性化拠点づくりを図ります。
7. まちに残る「本物」ブ ランドのメニュー開発と P R	歴史的街並みの残る御所まちの中には、観光客が興味を引かれる雰囲気の良い店舗や事業所があり、「早大生による御所市活性化への提言」の中では、「御所と結びついた『物語性』ある新商品開発」や「ものづくり体験を通じた地域活性化」が提言されています。 このような状況を踏まえ、地元の事業所やN P O等と協力を図りながら、地域の産業振興や歴史・文化の教育・体験を通しての御所まちのブランド化を進めることが重要と考えられ、まちに残る「本物」ブランドのメニュー開発とP Rを図ります。

6.1 御所駅周辺の景観づくり

概要	御所市は、豊かな自然や悠久の歴史・文化遺産を今に伝える、ロマン漂う生活文化都市です。しかし、近年、市人口は減少しており、市役所、図書館等の公共施設が集積する御所駅周辺地区は、より大きな減少率となっています。 このような状況を踏まえ、市の活力や市民のわがまちへの愛着低下が危惧されることから、まずは多くの市民や観光客が利用し、目に触れる機会の多い「御所駅周辺」において、市民にとって誇りとなり、観光客等が訪れたいと感じるような景観づくりを図ります。
事業期間	中期
内容	御所市内には、豊かな自然や悠久の歴史・文化遺産が数多くあり、多くの市民の誇りになっているほか、それらに惹かれて市外からも多くの観光客が御所市を訪れています。 鉄道を利用して本市に出入りする場合、近鉄及びＪＲの御所駅周辺が「まちの玄関口」となり、市の第一印象等を感じさせる重要な場所ですが、現在は駅前広場等の都市施設が十分景観に配慮されたものでないほか、それらに面する駅周辺の宅地部分でも、景観が十分ふさわしいものになっていないと考えます。 そこで、駅や駅前広場等の都市施設整備時に景観に配慮することをはじめ、民間宅地部分を含む駅から見える範囲で景観誘導を行い、文化的なイメージづくり等を進めていきます。
実施主体	御所市、駅周辺の地権者・市民等

【参考】

- 京都市京福電鉄嵐山駅の駅周辺空間
(駅舎等のデザインを配慮し、観光の余韻を持ち帰ることができるように、飲食店や土産物店等を設置)



- 山口県長門市のＪＲ長門市駅の駅周辺空間
(スペースを工夫してモニュメントを設置したり、駅前広場から見える周辺駐輪場にも乱雑さを感じさせない目隠しを設置)



6.2 御所駅前空間の環境改善

概要	御所駅は、多くの市民等に利用されており、なかでも近鉄御所駅は年間約 100 万人が利用する市の玄関駅です。駅利用者は、駅まで徒歩（40%）、自転車（25%）のほか、自家用車（送迎）やバス等で移動しており、「駅前待合いスペースの再整備」など、快適な乗り換え環境づくりへの住民ニーズが高くなっています。 このような状況を踏まえ、駅前広場でのバス・タクシー・送迎車等の再配置に合わせ、駅前空間での快適な移動及び乗り換え環境づくりを図ります。
事業期間	短期
内容	近鉄御所駅前広場は、乗り換えにあたり、利便面や安全・快適面で問題があるため、路線バス乗降場所の駅前広場近接地への移動やタクシー乗降スペースの再配置などにより、鉄道との乗り継ぎ利便を向上させるなど、交通結節機能の連携強化を図ることが求められています。 また、近鉄御所駅前バスのりばは、バス停上屋やベンチが未整備であり、現在あるベンチも不法占用のおそれがあるものであり、まちの美観面からも改善が望まれる状況です。そのため、利用者からもそれらの整備要望が出ており、「快適で利用しやすい駅前空間」に改良するため、バス停上屋やベンチの整備、バリアフリー化等を行い、交通結節機能の改善を図ります。 なお、御所駅は市民をはじめ、多くの観光客が訪れる「まちの玄関口」であり、市の第一印象等を感じさせる重要な場所であるため、現在不十分な景観を改善する観点から、それらの整備に当たって景観への配慮を行うほか、整備と相乗効果を得られるよう、駅前空間での広告物等の整理を合わせて行い、駅前空間の快適性向上を進めていきます。
実施主体	御所市、バス事業者、タクシー事業者、鉄道事業者

【参考】

- 滋賀県近江八幡市のバス乗り場上屋
（街のイメージを踏襲した、和風屋根のデザイン）



- 大阪府豊中市の北大阪急行千里中央駅の駅前空間
（雨天時も傘をささずにバス停まで移動でき、待てるようバス停上屋とベンチを設置）



6.3 駅前からの観光PRの強化

概要	御所駅は、歴史的な街並みの残る「御所まち」に近接した位置にある駅であり、市の活性化という観点からの観光振興を図るため、また、観光客には鉄道等の待ち時間を有効活用し、より楽しんで頂くため、駅前から御所まちへの回遊を誘う観光PRの強化が重要となっています。 このような状況を踏まえ、駅前空間～商店街区間～御所まちへと、より多くの観光客等が流れるよう、できることから整備等を図ります。
事業期間	短期～中期
内容	現在、近鉄御所駅に観光案内所がありますが、鉄道やバス等で駅を訪れる観光客の動線上から少しずれた位置にあり、またそれらの乗り換え時に通る位置の駅売店が閉鎖されたままであること等から、より多くの人に効果的に情報発信ができる観光案内所づくりに向けた取組を図ります。 また、駅・駅前広場利用者に、御所まちの存在をわかりやすく伝え、気軽に訪れて頂くため、駅と御所まちに挟まれた位置にある商店街の入り口部に、誘導ゲートの設置等を促します。 さらに、駅～商店街～御所まちへと人がスムーズに流れるよう、それぞれの場所でわかりやすい案内サイン整備等を進めていきます。
実施主体	御所市、商店街

【参考】

- 滋賀県彦根市の観光案内所
(高架駅から降りてくる階段正面という
わかりやすい場所で、地区の観光をPR)



- 京都市嵯峨嵐山駅前商店街のゲート
(駅からの商店街入り口部に、観光地の存在
とともてなしの気持ちをPRするゲートを設置)



- 兵庫県朝来市生野駅の観光情報板
(駅周辺と市域全域の観光地情報を
わかりやすく紹介する観光案内板を設置)



- 福井県大野市の案内サイン
(地図を組み入れ、現在地と目的地をわかりや
すくした、回遊しやすい案内サインを設置)



6.4 御所まちと商店街を含む、観光まち歩き・サイクリングルートの設定と、 利用促進策の取り組み

概要	御所駅前には位置する商店街では、近年訪れる人が減っており、商業者も「にぎわい、活力ある商店街」への再生を望んでいます。一方で、商店街の東には観光資源の御所まちがあり、西側には観光客が訪れる御所駅があります。 このような状況を踏まえ、駅を訪れた観光客に御所まちな魅力をもたらし、また御所まちを訪れた観光客には駅からの自転車・バス等利用も含め、市内に点在する他の観光資源を楽しんで頂くため、さらには、御所まちと駅の間に位置する商店街には増加するであろう観光客に視点を置いた活性化に取り組んでももらえるような、観光まち歩き・サイクリングルートの設定と、利用促進策の取組を図ります。
事業期間	短期～中期
内容	行者道とは、修験道の開祖「役行者」こと役小角が、生地の御所市茅原から修行の場である葛城山・金剛山に通った道で、正確なルートは不明ですが、御所まちの東側には役小角が開基した吉祥草寺があり、毎年そこで行われる「霜月祭」開催時には、行者たちが御所駅から御所町を通り、寺まで練り歩く道を、行者街道プロジェクトチームが行者街道として設定しています。 この街道を辿ることで御所まちな雰囲気を楽しむことができますが、例えば駅から葛城山・金剛山までの回遊ルートを設定すれば、より多くの観光客等が、より多くの御所市の魅力に触れられると考えられます。そのため、回遊を促すような「観光まち歩き・サイクリングルートの設定」とそのルートの利用促進の取組等を検討、進めていきます。 また、駅～商店街～御所まちな至るルート上には、商店街が位置していますが、中期的には観光客等の快適な移動と商店街の振興を狙った安全・快適な回遊路の確保を図ります。 図 御所まちと行者街道
実施主体	御所市、商店街・住民等

【参考】

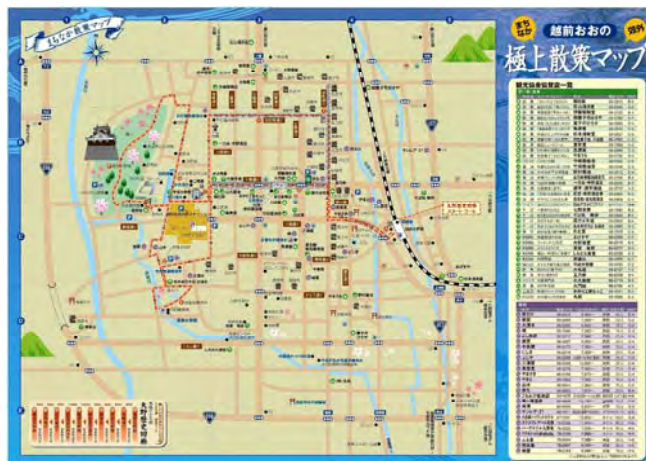
- 岡山県真庭市勝山の観光ルートマップ
(観光客が市内の観光地を回遊しやすい
ように、観光地内で観光ルートを案内)



- 兵庫県丹波市柏原地区の商店街空間
(商店街通りを美装化する際、車道と路肩の
舗装仕上げを変える等の工夫により、まち
を回遊する際のイメージの向上と、車に対
する安全性の向上を同時に実現)



- 福井県大野市の観光回遊を促すマップ
(JR越前大野駅を起点とした、
徒歩等での回遊を促す、
「まちなか散策マップ」)



- (まちなかで回遊ルートが結節する、
車や自転車での回遊を促す
「郊外散策マップ」)



6.5 御所まち、市役所・図書館、ライフ・銀行等の便民施設など周辺施設利用者を 商店（街）へと引き込む市民等交流拠点づくり

概要	御所駅前位置する商店街では、近年訪れる人が減っており、商業者も「にぎわい、活力ある商店街」への再生を望んでいます。一方で、御所まちだけでなく、商店街の周辺にある市役所・図書館、ライフ・銀行等の便民施設など、商店街の周辺にある施設には多くの市民が日常的に訪れています。 このような状況を踏まえ、周辺施設を訪れた市民等に、ついでにでも商店街を訪れてもらえるような、市民等交流拠点づくりを図ります。
事業期間	中期
内容	現在、商店街周辺には多くの市民等が日常的に訪れており、商店街内に訪れたくなる拠点があれば、多くの市民等が一步足を伸ばして商店街を訪れると推察されます。また、商店街を訪れた市民は、通りを買い物のために散策することなく、目的のお店で用事を済ませると、すぐに帰っていると推察され、商店街内で足を止めなくなる仕掛けがあることが望まれます。 そのため、市民・NPO等と協働し、商店街内の空き店舗を利用するなどして、ついでに市民等が訪れたくなるような、小さな交流拠点づくりを図ります。
実施主体	御所市、商店街、市民・NPO等

【参考】

- 和歌山県海南市の親子カフェ&コミュニティレストラン
(親子が気軽に利用できる「地域のお茶の間」のコンセプト。月に2回は家庭の主婦が日替わりシェフとなり、地元食材を活用したランチを提供。)



- 滋賀県大津市のまちなか交流館「ゆうゆう館」の世代間交流スペース
(商店街の活性化、三世代の交流、観光の促進という3つのテーマを目的にオープン。1Fは商業体験スペース、2Fは貸しホール、3Fは子どもや高齢者が気軽に集うフリースペース。特に3Fの交流スペースは絨毯敷きで、おもちゃもあり気軽に集うスペースとして機能。)



6.6 住民の日常生活に馴染む形での街並みの魅力強化やPR、

小さな活性化拠点づくり

概要	御所駅の南東には、市民が誇れる歴史的街並みのある「御所まち」があり、「霜月祭」の開催時等には、多くの観光客が訪れる観光地になっています。一方で御所まちには多くの人が今も住み、日常生活を送る場となっています。 このような状況を踏まえ、住民等の理解を得ながら、御所市や近隣商店街の振興のためにも、より多くの観光客が訪れる場にしていくことが望まれるため、住民の日常生活に馴染む形での歴史的街並みのPRや、観光客を呼び込み、もてなす理由となるような、小さな活性化拠点づくりを図ります。
事業期間	短期～中期
内容	御所まちには、住民やNPO等の取組の結果として、多くの観光客が魅力的と感じる歴史的街並みがあります。しかし、一方で、住民の暮らしの場であるため、観光サービス商業地になっておらず、訪れた観光客等が、まちの歴史・文化に親しんだり、楽しい雰囲気の中で観光サービス（もてなし）を楽しめるまちになっていません。 そのため、地元住民・NPO等と調整・連携を図り、地元が望む形で、より多くの人が訪れたいくなるように、「街並み」の魅力強化やPR、「御所まち」内で休憩したり、楽しめるような広場・飲食店・雑貨店等の確保を図ります。
実施主体	御所市、住民・NPO、商店街等

【参考】

●岡山県真庭市勝山地区

（地元住民が自ら行う「のれんのまちづくり」や「雛祭り」等のまちづくり活動が街並みの魅力を強め、暮らしの場に観光客を惹き付けている。）



●滋賀県彦根市花しょうぶ商店街の「街の駅」

（商店街の町屋を活用した交流拠点。陶芸教室や俳画教室が開かれるとともに、夜は子供達が集まる寺子屋としての機能も。カフェなども併設。）



6.7 まちに残る「本物」ブランドのメニュー開発とPR

概要	歴史的街並みの残る御所まちの中には、観光客が興味を引かれる雰囲気の良い店舗や事業所があり、「早大生による御所市活性化への提言」の中では、「御所と結びついた『物語性』ある新商品開発」や「ものづくり体験を通じた地域活性化」が提言されています。 このような状況を踏まえ、地元の事業所やNPO等と協力を図りながら、地域の産業振興や歴史・文化の教育・体験を通しての御所まちのブランド化を進めることが重要と考えられ、まちに残る「本物」ブランドのメニュー開発とPRを図ります。
事業期間	中期
内容	御所まちでは、歴史的な街並みの中で住民の暮らしが息づいており、現在も営業している店舗や工場等の事業所があります。そのなかには、歴史的街並みが良い雰囲気を作りだしているものもあり、訪れた観光客等の興味をそそると推察されます。しかし、一方で、観光地化が進んでおらず、観光客がそれを手軽に楽しめるようになっておらず、御所まちの良い印象を深めるためにも、まちに残る「本物」を体験したり、味わったりできるようなメニュー開発を進めていくことが望まれます。 そのため、地元事業者・NPO等と調整・連携を図り、訪れた観光客等がより深く御所の楽しみに触れられる、体験や飲食、購買など「本物」ブランドの着地型観光メニュー等の開発やそのPRを図ります。 ※御所まちで営業されている雰囲気の良い造り酒屋と紙屋  
実施主体	事業者（商業者等）・NPO、御所市

【参考】

●岐阜県郡上市八幡町の造り酒屋

(観光客など一般客の購入も可能で、店先のしつらえがまちの賑わい創出に寄与している。)



●石川県金沢市の紙の専門店

(2Fでは紙にまつわる各種教室(書道、水墨画、折り紙、水引教室など)が開催されている。)



●岐阜県高山市の体験学習プログラム

(広く知られた観光スポット等を目当てにくる観光客向けだけでなく、より地域を深く知りたい観光客向けに、地域ならではの文化や技などを体験、PRできるプログラムを用意。)

→着地型観光による活性化)

